

平成31（令和元）年度 全国学力・学習状況調査

～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

## はじめに

平成31（令和元）年度全国学力・学習状況調査は、国語、算数・数学において知識と活用を一体的に問う問題に見直されるとともに、新たに中学校で英語を加えて実施されました。本市の状況は、小学校の国語では全国とほぼ同様（下位）の結果でしたが、算数並びに中学校の全教科で全国平均を下回りました。

全国平均との差について、小学校国語については昨年度よりも縮まりましたが、算数ではやや広がりました。中学校では国語・数学ともに僅かに全国との差が広がりました。

学校毎にみますと、全国平均との差を縮めた学校や各教科・領域で大きく伸びた学校もありましたが、調査科目の平均で全国を上回る学校数は昨年度と同様で、小学校では12校中5校、中学校で8校中2校でした。

本調査は、「国語、算数・数学、英語（中学校）」の学力面だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習状況」も調査分析の対象としています。

児童・生徒質問紙からは、自己有用感や規範意識、将来への夢など多くの項目で全国と同様・ほぼ同様の傾向にあることがわかりました。一方、朝食摂取、起床就寝時間等の基本的な生活習慣について、もう一度見直す必要があることや家庭での学習時間や読書時間の不足が課題となっています。授業に関しては、小学校で主体的・対話的で深い学びが進められていることが窺われますが、さらに子どもたちが実感できる授業改善に取り組むことが求められます。

学校質問紙からは、家庭学習の定着に向けた学校の取組として「家庭学習の課題を与える」「教職員間の共通理解」などに改善が見られ、「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した学校が全国平均を上回りました。また、学校力向上のため、地域人材活用や保護者の学校支援活動、小中学校間の連携が着実に進展していることがわかりました。

石狩市教育委員会は、学力面で全国平均に届いていない状況にあることや調査結果で明らかになった実態や取組の成果と課題を踏まえ、今後の学力向上への対策を各校と連携し進めてまいります。また、本市では「全国学力・学習状況調査」の他に、市独自に「CRT学力検査」を市内全校で実施しています。各校では、それらの調査結果も合わせて分析し、自校の日常の授業改善を図っています。

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが重要であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

## 全国学力・学習状況調査について

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2. 調査の対象学年

小学校第6学年，中学校第3学年

### 3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査【国語，算数・数学，英語（中学校）】
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童・生徒及び学校に対する調査）

### 4. 調査の方式

平成19年度～21年度：悉皆調査

平成22年度～25年度：抽出調査及び希望利用方式（石狩市は全校が実施）

（但し23年度は東日本大震災のため希望校のみの実施で石狩市は全校が実施）

平成26年度以降：悉皆調査

※調査問題は、「国立教育政策研究所」のホームページで見ることができます。

「国立教育政策研究所」を検索後、「全国学力・学習状況調査」をクリック

### 5. 調査実施日

平成31年 4月18日（木）

### 6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校：市内全小学校12校で実施 512名

中学校：市内全中学校 8校で実施 558名

# 平成31(令和元)年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 国語】

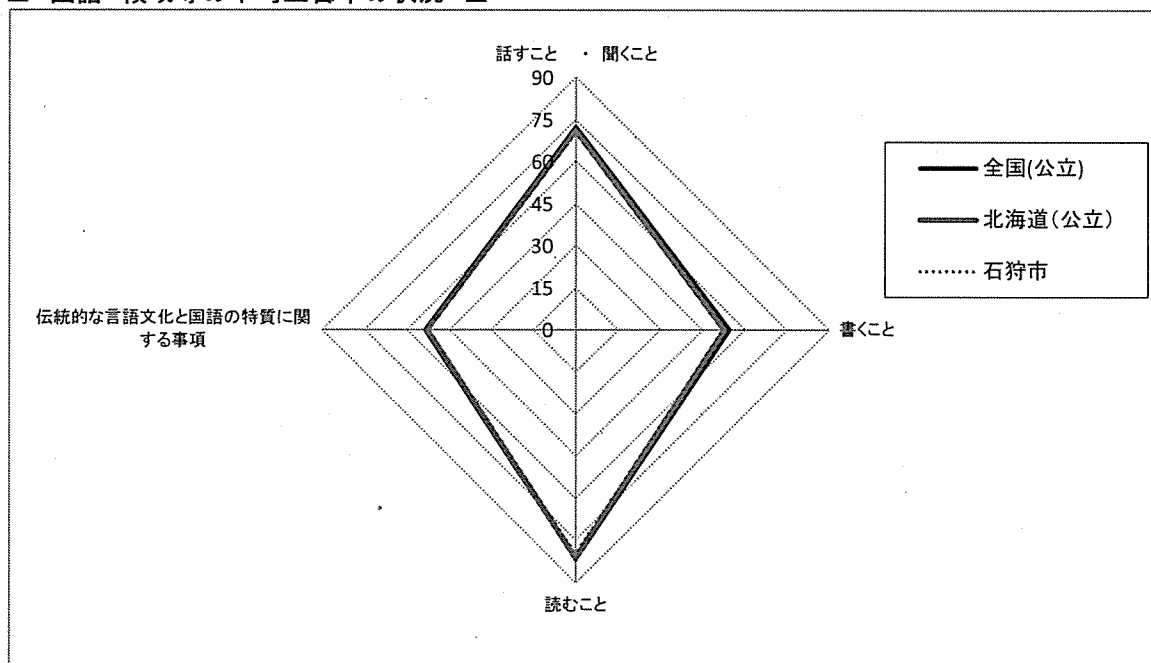
## □ 正答率の状況 □

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	8.9問/14問	63.8%
全道(公立)	8.8問/14問	62.8%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆	○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

## □ 国語 領域等の平均正答率の状況 □



## □ 国語科の概要 □

- ◇国語の正答率は、僅かに全国平均より低かったものの全道平均と同様の結果となりました。昨年度との比較では出題形式が変更されたことから一概には判断できませんが、昨年度の国語ABの平均正答率と比較すると全国との差は縮小し、ほぼ同様になりました。
- ◇領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全道と同様であり、全国とほぼ同様(下位)という結果でした。また、「読むこと」は全道・全国とほぼ同様(下位)で、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全道・全国と同様の結果でした。
- ◇問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国とほぼ同様(下位)であり、「短答式」は全道・全国と同様の結果でした。また、「記述式」は全道と同様で全国とはほぼ同様(下位)の結果でした。



## 国語

### ○調査問題の内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に基づいて、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。

(例)

- ・問題文「公衆電話」を読み、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。
- ・問題文「食べ物の保存」から、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む。
- ・問題文「豊職人へのインタビュー」から、話し手の意図を捉えながら聞き自分の考えをまとめる。
- ・問題数は14問です。

### 【各領域の傾向】

- ・「話すこと」「聞くこと」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道と同様で、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全道・全国と同様の傾向を示しています。

### 【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1四(1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の <u>      </u> 部イを、漢字を使って書き直す	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う(友達にかぎらず)	伝統的な言語文化	83.2%	70.3%	69.4%
2一(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の(ア)に入る、(疑問に思ったこと)の①に対する答えとして適切なものを選択する	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む	読むこと	77.9%	80.0%	80.7%
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む	読むこと	86.7%	88.3%	88.5%

### 【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「 <u>      </u> 」に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	書くこと	26.4%	27.9%	28.8%
1四(1)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の <u>      </u> 部ウを、漢字を使って書き直す	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う(かんしんをもってもらいたい)	伝統的な言語文化	26.2%	34.1%	35.6%

## 【指導の改善にあたって】

### 【問題番号1三 書くこと】

- ・自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切です。その際、文章の種類や特徴を踏まえて書くことが重要です。本問のような調べたことを報告する文章では、調べた結果から自分がどのような考えをもったかを表現することになります。
- ・学習指導にあたっては、事実と感想、意見などと区別して書くことができるようにすること。また、自分の考えを支える理由や事例を明確にすることができるようにすることが大切です。

### 【問題番号1四（1）ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・文や文章の中で漢字を正しく使うこと、また、漢字の学習指導にあたっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが大切です。そのためには、新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、本問のように自分が書いた文章を見直す中で、漢字の持つ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにすることが大切です。
- ・特に、同音異義語の学習指導にあたっては、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにすることが大切です。

## 【教科(国語)に関する意識(質問紙の傾向)】

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の63.6%、全国の64.2%に対して石狩市は63.9%で、全道より0.3ポイント高く、全国より0.3ポイント低くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の93.1%、全国の93.0%に対して石狩市は92.8%で、全道より0.3ポイント、全国より0.2ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の84.4%、全国の84.9%に対して石狩市は84.8%で、全道より0.4ポイント高く、全国より0.1ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.3%、全国の91.2%に対して石狩市は90.2%で、全道より1.3ポイント、全国より1.0ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の74.3%、全国の76.9%に対して石狩市は71.7%で、全道より2.6ポイント、全国より5.2ポイント低くなっています。
- ・「国語の目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」に対する肯定的な回答は、全道の76.0%、全国の78.1%に対して石狩市は79.1%で、全道より3.1ポイント、全国より1.0ポイント高くなっています。
- ・「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか」に対する肯定的な回答は、全道の65.6%、全国の68.5%に対して石狩市は66.6%で、全道より1.0ポイント高く、全国より1.9ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えながら読んでいますか」に対する肯定的な回答は、全道の69.7%、全国の71.4%に対して石狩市は67.5%で、全道より2.2%、全国より3.9%低くなっています。
- ・「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について「最後まで努力した」との回答は、全道の79.5%、全国の80.4%に対して石狩市は79.1%で、全道より0.4ポイント、全国より1.3ポイント低くなっています。

# 平成31(令和元)年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 算数】

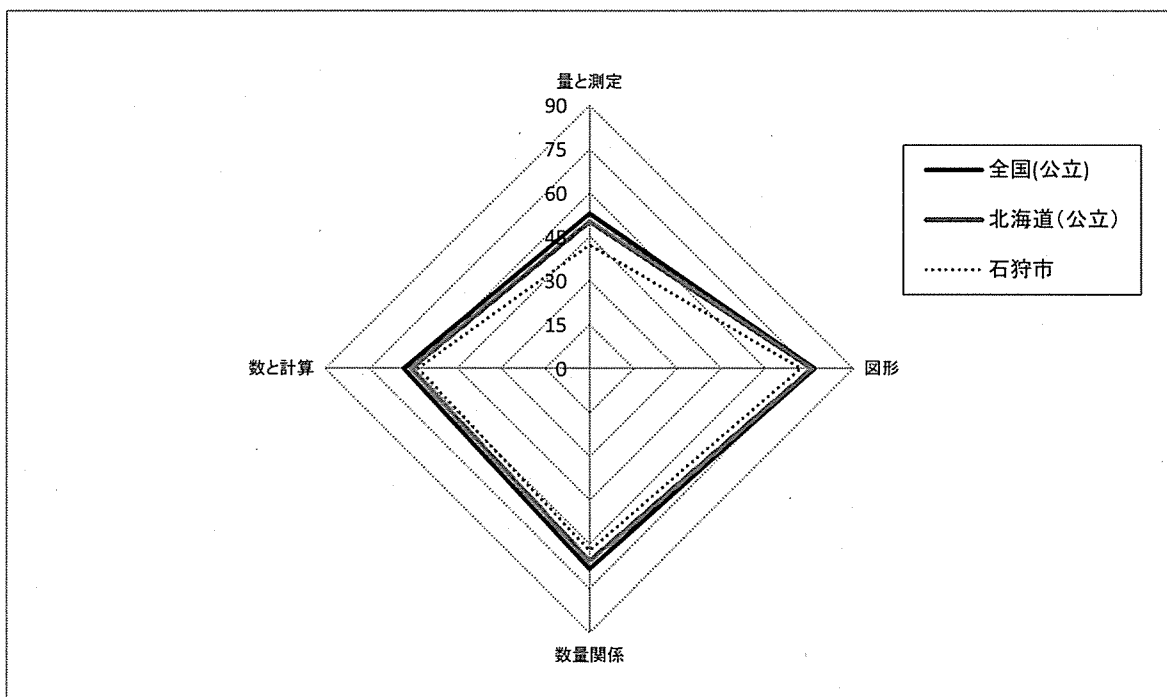
## □ 正答率の状況 □

	算数	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.3問/14問	66.6%
全道(公立)	9.0問/14問	64.5%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○			☆			○		
全国 : ☆								

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

## □ 算数 領域等の平均正答率の状況 □



## □ 算数科の概要 □

◇算数の平均正答率は、全道よりやや低く、全国より低い結果でした。昨年度との比較では、出題形式が変更されたことから一概には判断できませんが、昨年の算数ABの平均正答率と比較すると全国との差が広がりました。

◇領域別では、「量と測定」で全道・全国より相当低く、「数量関係」で全国より低く全道よりやや低い結果でした。また、「図形」では全道・全国よりやや低く、「数と計算」では、全道とほぼ同様(下位)で全国よりやや低い結果でした。

◇問題形式の正答率では、「選択式」と「短答式」が全道とほぼ同様(下位)で全国よりやや低く、「記述式」は全道・全国より相当低い結果でした。

## 算数

### ○調査問題の内容

学習指導要領における「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。

(例)

- ・図形の性質や構成要素に着目して、基本的な平面図形を考察する。
- ・日常生活の問題の解決のために、資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断する。
- ・計算の仕方を解釈して適用したり、考察したりする。
- ・日常生活の問題の解決のために、場面から伴って変わる二つの数量を見出し、数学的に表現・処理して判断する。
- ・問題数は14問です。

#### 【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道・全国より相当低い傾向にあります。
- ・「図形」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向にあります。
- ・「数量関係」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。

#### 【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1(1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	台形について理解している	図形	88.5%	92.2%	93.1%
2(1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる	数量関係	94.3%	95.3%	95.2%
3(1)	350-97について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる	数と計算	81.3%	80.5%	81.8%

#### 【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1(3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	量と測定	31.1%	41.8%	43.9%
2(3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる	量と測定	41.4%	49.5%	52.1%
3(2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	数と計算	26.2% *無回答率 8.0%	30.1% *無回答率 12.1%	31.1% *無回答率 10.8%

## 【指導の改善にあたって】

### 【問題番号1 (3) 量と測定】

- 本問では、示された図形の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することが求められています。指導にあたっては、例えば、本問題を用いて、二つの合同な台形で作られた形について、面積の求め方を考察し式で表現して、面積の求め方について説明し合う活動が考えられます。その際、示された図形が既習である図形で構成されている形と捉えることができるようにすることが大切です。さらに、面積の求め方について数式を用いて説明した場合には、数の意味や演算の意味などを、学級全体に問いかけ、図形と関連付けて説明することができるようにすることも大切です。

### 【問題番号2 (3) 数量関係】

- 本問では、資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述することが求められています。指導にあたっては、例えば、本問題を用いて水を大切に使用しているかどうかを知るために、市全体の水の使用量には、市の人口が関係していることに気付き、一人当たりの水の使用量について考察し、判断する活動が考えられます。その際、市全体の使用量と市の人口について、それぞれの資料の特徴や傾向を関連付けて考察する必要があることに気付くようにすることが大切です。

### 【問題番号3 (2) 数と計算】

- 本問では、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することが求められています。指導にあたっては、例えば商が同じになるいくつかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ式を見出す活動が考えられます。その際、被除数と除数や、商について、適用する数の範囲を広げていきながら、見出したことがほかの数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるようにすることが大切です。

## 【教科(算数)に関する意識(質問紙の傾向)】

- 「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の66.4%、全国の68.6%に対して石狩市は67.2%で、全道より0.8ポイント高く、全国より1.4ポイント低くなっています。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の93.2%、全国の93.7%に対して石狩市は91.0%で、全道より2.2ポイント、全国より2.7ポイント低くなっています。
- 「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の80.8%、全国の83.5%に対して石狩市は82.2%で、全道より1.4ポイント高く、全国より1.3ポイント低くなっています。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.0%、全国の92.5%に対して石狩市は90.4%で、全道より1.6ポイント、全国より2.1ポイント低くなっています。
- 「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の73.2%、全国の76.5%に対して石狩市は75.0%で、全道より1.8ポイント高く、全国より1.5ポイント低くなっています。
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の77.0%、全国の79.1%に対して石狩市は82.4%で、全道より5.4ポイント、全国より3.3ポイント高くなっています。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の80.4%、全国の82.0%に対して石狩市は82.5%で、全道より2.1ポイント、全国より0.5ポイント高くなっています。
- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の80.1%、全国の82.1%に対して石狩市は82.6%で、全道より2.5ポイント、全国より0.5ポイント高くなっています。
- 「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について「最後まで努力した」との回答は、全道の78.4%、全国の80.7%に対して石狩市は79.1%で、全道より0.7ポイント高く、全国より1.6ポイント低くなっています。

# 平成31(令和元)年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 国語】

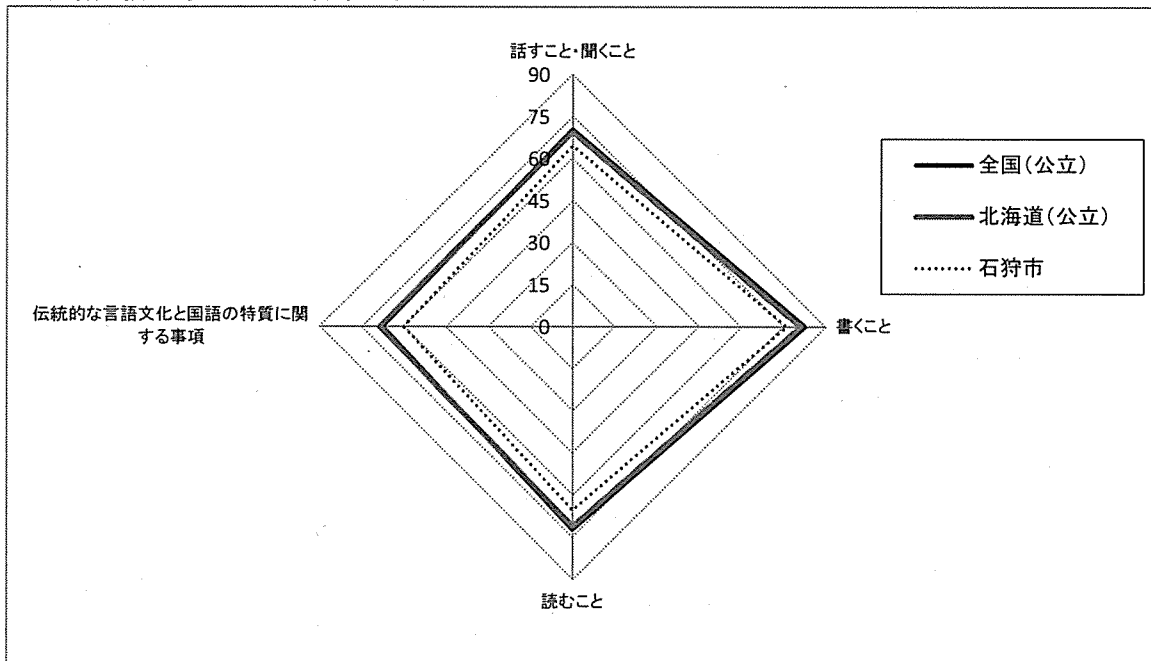
## □ 正答率の状況 □

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	7.3問/10問	72.8%
全道(公立)	7.2問/10問	72.1%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○					☆				○
全国 : ☆									

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

## □ 国語 領域等の平均正答率の状況 □



## □ 国語科の概要 □

- ◇国語の正答率は全道・全国より低い結果となりました。昨年度との比較では、出題形式が変更され、また、問題数が10問と大幅に少なくなったことから一概には判断できませんが、昨年の国語ABの平均正答率と比較すると全国との差は僅かに広がりました。
- ◇領域別では、「話すこと・聞くこと」は全道よりもやや低く、全国より低い結果となりました。また、「書くこと」「読むこと」は全道・全国より低く、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全道・全国より相当低い結果でした。
- ◇問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国より低く、「短答式」は全道・全国より相当低く、「記述式」は全道より低く、全国より相当低い結果となりました。

## 国語

### ○調査問題の内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に基づいて、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。

(例)

- ・「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く。
- ・話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていること」について自分の考えを書く。
- ・広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える。
- ・語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する。
- ・問題数は10問です。

### 【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。

### 【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ	読むこと	82.7%	89.4%	91.2%
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	話すこと 聞くこと	77.3%	80.6%	80.4%
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	書くこと	83.5%	86.5%	87.4%

### 【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49.5%	56.9%	56.8%
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	話すこと 聞くこと	52.2%	57.9%	60.4%

### 【指導の改善にあたって】

#### 【問題番号1四 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くように指導することは、社会生活に役立つ書写の能力を育むために重要です。その際、相手の名前を他の文字よりも大きく書くことなど、手紙の形式に込められた相手への敬意について考えさせることも大切です。また、日常生活においても、意識的に書写の学習の成果を生かすよう指導することが必要です。

#### 【問題番号2三 話すこと・聞くこと】

話し合いをする際には、話題や方向を的確に捉え、自分の考えを持ちながら参加するように指導をすることが大切です。その際、必要に応じて話し合いの話題について確認したり、話し合いの経過を捉えたりすることができるように指導することも重要です。例えば、小学校での学習を踏まえ、司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話し合いを行うなどの学習が考えられます。

## 【教科（国語）に関する意識（質問紙の傾向）】

- ・「国語の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の65.0%、全国の61.7% に対して石狩市は、71.3%で全道より6.3ポイント、全国より9.6ポイント高くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の90.5%、全国の91.0% に対して石狩市は93.1% で、全道より2.6ポイント、全国より2.1ポイント高くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の79.9%、全国の77.6% に対して石狩市は79.1% と、全道より0.8ポイント低く、全国より1.5ポイント高くなっています。
- ・「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」についての肯定的な回答は、全道の74.9%、全国の77.4% に対して石狩市は72.4% で、全道より2.5ポイント、全国より5.0ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」についての肯定的な回答は、全道の69.8%、全国の71.6% に対して石狩市は72.2% で、全道より2.4ポイント高く、全国より0.6ポイント高くなっています。
- ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の87.9%、全国の88.0% に対して石狩市は90.6% で、全道より2.7ポイント、全国より2.6ポイント高くなっています。
- ・「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか」についての肯定的な回答は、全道の63.2%、全国の64.4% に対して石狩市は59.6% と、全道より3.6ポイント、全国より4.8ポイント低くなっています。
- ・「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の77.8%、全国の79.8% に対して石狩市は70.4% と、全道より7.4ポイント、全国より9.4ポイント低くなっています。



# 平成31(令和元)年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 数学】

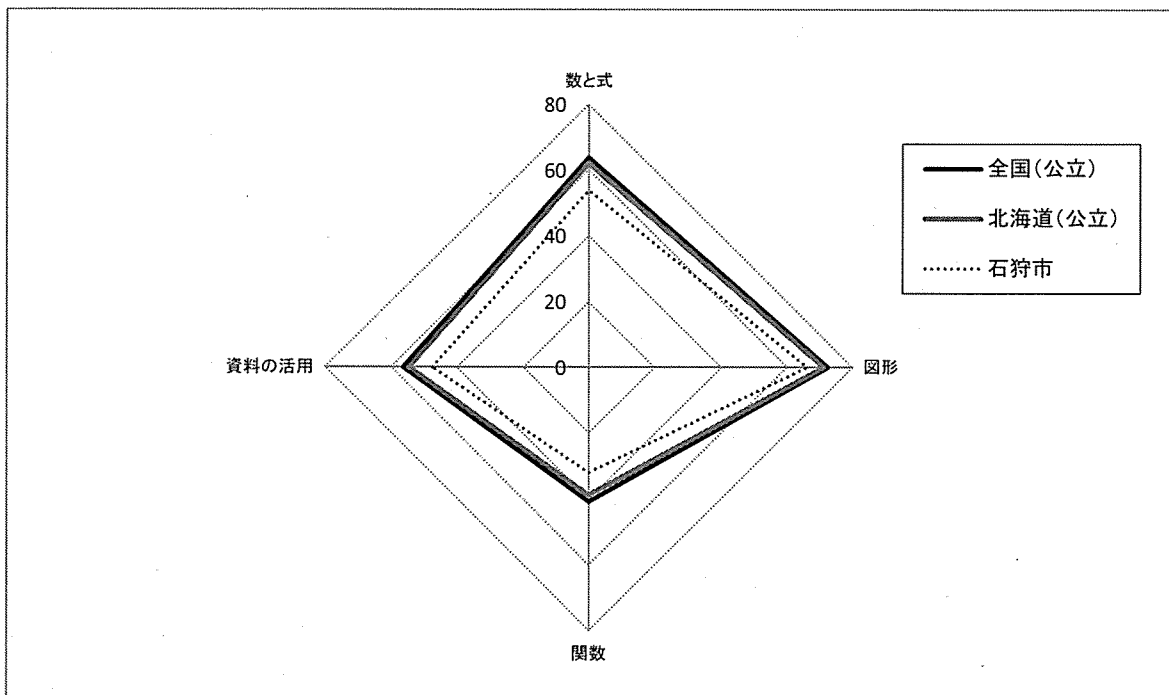
## □ 正答率の状況 □

	数学	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.6問/16問	59.8%
全道(公立)	9.3問/16問	58.1%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				☆					○
全国 : ☆				☆					○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

## □ 数学 領域等の平均正答率の状況 □



## □ 数学科の概要 □

- ◇ 数学の平均正答率は、全道より低く、全国より相当低い結果でした。昨年度との比較では、出題形式が変更され、また、問題数が16問と大幅に少なくなったことから一概には判断できませんが、昨年の数学ABの平均正答率と比較すると全国との差は僅かに広がりました。
- ◇ 領域別では「数と式」と「資料の活用」は全道・全国より相当低く、「図形」は全道・全国より低く、「関数」は全道より低く、全国より相当低い結果でした。
- ◇ 問題形式別では「選択式」は全道よりやや低く、全国より低い結果でした。「短答式」と「記述式」は全道・全国より相当低い結果でした。

## 数学

### ○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。

(例)

- ・ a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ。
- ・ 連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する。
- ・ 証明で用いられている三角形の合同条件を書く。
- ・ 四角形 ABCD がどのような四角形であれば、 $AF = CE$  になるかを説明する。
- ・ 冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。
- ・ 問題数は16問です。

### 【各領域の傾向】

- ・ 「数と式」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・ 「図形」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・ 「関数」の領域は、全道より低く、全国より相当低い傾向を示しています。
- ・ 「資料の活用」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。

### 【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
3	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める	平行移動の意味を理解している	図形	77.6%	81.7%	83.6%
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	図形	72.5%	76.0%	75.8%

### 【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
4	反比例の表から式を求める	反比例の表から、 $x$ と $y$ の関係を式で表すことができる	関数	33.9%	46.0%	48.9%
6(2)	冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関数	23.9%	33.1%	34.7%
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	数と式	45.8%	55.2%	59.7%

### 【無解答率の高い問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全道		全国	
				正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	資料の活用	32.3%	40.8%	41.0%	25.2%	40.8%	21.3%

## 【指導の改善にあたって】

### 【問題番号4 関数】

表、式を関連付ける活動を取り入れ、反比例における比例定数や対応の特徴を捉え、 $x$ と $y$ の関係を式で表すことができるように指導することが大切です。例えば、反比例の表を用いて $x$ の値とそれに対応する $y$ の値の積が常に一定の値となり、その値が比例定数であることを確認するなど、表から式を求めることができるように指導することが大切です。

### 【問題番号6(2) 関数】

様々な問題を数学を活用し解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができるように指導することが大切です。例えば、「連立方程式をつくり、それを解いて値を求める」ことや「2つのグラフの交点の $x$ 座標を読み取る」などと説明する場面を設定することが考えられます。

### 【問題番号9(2) 数と式】

事柄が一般的に成り立つ理由を、文字や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導することが必要です。例えば、連続する5つの奇数を表した式を $5 \times$  (中央の奇数) の形にすればよいという見通しをもって、変形する場面を設定することが大切です。

### 【問題番号8(2) 資料の活用】

代表値を求めたデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、批判的に考察し判断できるように指導することが大切です。ここで、批判的に考察することは、物事を単に否定するのではなく、多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだすために必要です。例えば、平均値が代表値としてふさわしいかどうかをデータの分布の様子から検討し、判断する場面を設定することが考えられます。

## 【教科(数学)に関する意識(質問紙の傾向)】

- ・「数学の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の55.0%、全国の57.9% に対して石狩市は、54.6%で全道より0.4ポイント、全国より3.3ポイント低くなっています。
- ・「数学の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の82.9%、全国の84.2% に対して石狩市は84.0% で、全道より1.1ポイント高く、全国より0.2ポイント低くなっています。
- ・「数学の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の71.3%、全国の73.9% に対して石狩市は69.3% と、全道より2.0ポイント、全国より4.6ポイント低くなっています。
- ・「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の74.5%、全国の76.2% に対して石狩市は75.5% で、全道より1.0ポイント高く、全国より0.7ポイント低くなっています。
- ・「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の55.6%、全国の60.8% に対して石狩市は51.3% と、全道より4.3ポイント、全国より9.5ポイント低くなっています。

# 平成31(令和元)年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 英語】

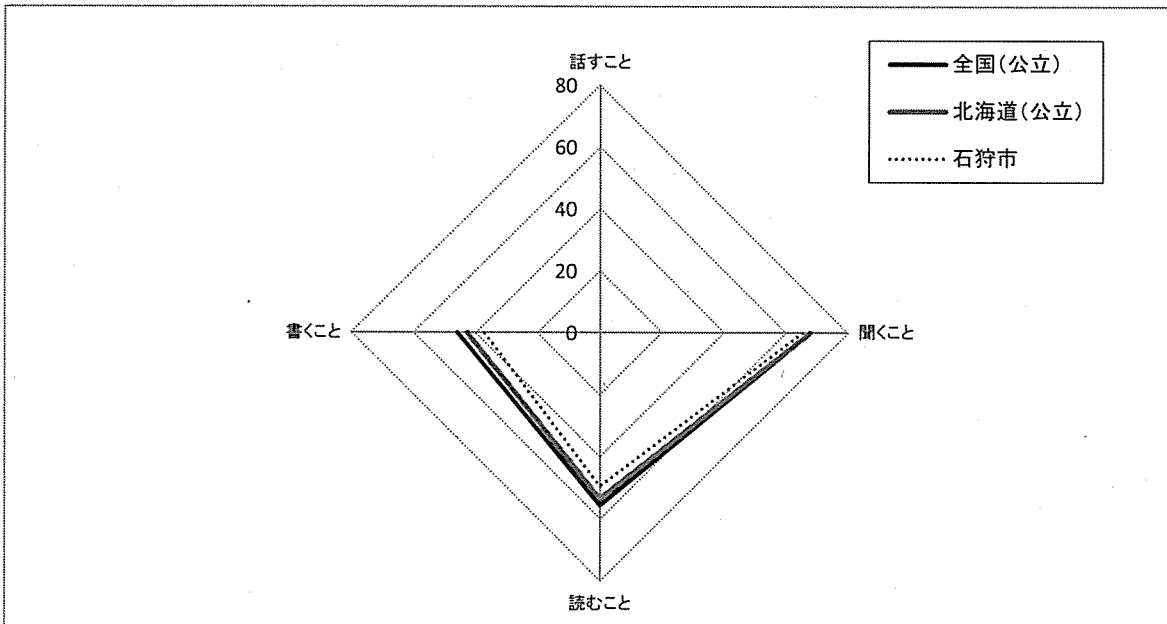
## □ 正答率の状況 □

	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	11.8問/21問	56.0%
全道(公立)	11.4問/21問	54.2%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				☆					○
全国 : ☆				☆					○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

## □ 英語 領域等の平均正答率の状況 □



## □ 英語科の概要 □

- ◇英語の正答率は全道よりやや低く、全国より低い結果でした。
- ◇領域別では「聞くこと」は全道・全国と同様(下位)で、「読むこと」は全道よりやや低く、全国より低く、「書くこと」は全道より低く、全国より相当低い結果でした。尚、「話すこと」の結果は公表していません。
- ◇問題形式別では「選択式」は全道よりやや低く、全国より低い結果でした。「短答式」は全道より低く、全国より相当低く、「記述式」は全道・全国と同様(下位)の結果でした。

## 英語

### ○調査問題の内容

学習指導要領に示されている4領域（「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」）に基づいてその目標や内容を踏まえ言語材料や言語活動をバランスよく出題しています。

（例）

- 外国語理解の能力
  - ・概要や要点を聞き取る力【聞くこと】
  - ・自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書くことができるよう必要な情報を読み取る力【読むこと】
- 外国語表現の能力
  - ・文のつながりなどに注意して書く力【書くこと】
  - ・問答したり意見を述べたりする力【話すこと】
- 問題数は21問です。

### 【各領域の傾向】

- ・「聞くこと」は全道・全国と同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「話すこと」は結果を公表しておりません。
- ・「読むこと」は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」は、全道より低く、全国より相当低い結果でした。

### 【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	聞くこと	85.7%	87.7%	88.6%
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	読むこと	73.5%	75.9%	79.4%

### 【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題についての自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる	読むこと	7.5%	9.4%	10.9%
10	学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる	書くこと	0.7%	1.4%	1.8%

### 【無答率の高い問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全道		全国	
				正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に反応することができる	聞くこと	5.9%	53.6%	6.7%	44.9%	7.6%	42.3%

## 【指導の改善にあたって】

### 【問題番号8 読むこと】

読んだことについて、自分の考えを述べる際には、単に内容を理解するだけでなく、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことが大切です。例えば、説明文を読み、書き手の主張をまとめる。次に、ペアやグループで尋ねあったり、伝え合ったりする。さらに、活動の合間に、自分の使った英語を振り返り、表現の正確さを高める。最後に、ペアやグループで伝え合ったことを、自分の意見として簡潔に書いてまとめる学習方法が考えられます。

### 【問題番号10 書くこと】

与えられたテーマについてまとまりのある文章を書く際には、まずテーマについての自分の考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるかを考えながら書き表す必要があります。そのためには、①「話して書く」「読んで書く」等の領域を統合した指導を行う。②英文を読み合い、よりよく読み手に伝わるように書く指導を行う。③書くことを増やすための指導を行う。④I, You以外の三人称 (He, She, It, There等)の主語を用いて客観的に事実を伝える力を養う指導が考えられます。

### 【問題番号4 聞くこと】

「聞くこと」の指導にあたっては、「聞くこと」が目的をもって行う能動的な活動であることを念頭に置き、ただ聞いて理解するだけの活動にしないことが大切です。そのためには、内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させることが重要です。また、日頃から英語でのやり取りする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ね、体験的に身に付けさせていくことも必要です。

## 【教科（英語）に関する意識（質問紙の傾向）】

- ・「英語の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の54.6%、全国の56.0%に対して石狩市は52.5%で全道より2.1ポイント、全国より3.5ポイント低くなっています。
- ・「英語の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の81.8%、全国の85.4%に対して石狩市は81.8%で全道と同様で、全国より3.6ポイント低くなっています。
- ・「英語の授業はよくわかりますか」についての肯定的な回答は、全道の64.6%、全国の66.0%に対して石狩市は61.4%で全道より3.2ポイント低く、全国より4.6ポイント低くなっています。
- ・「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の82.1%、全国の85.4%に対して石狩市は81.8%で、全道より0.3ポイント、全国より3.6ポイント低くなっています。
- ・「あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にありましたか」についての肯定的な回答は、全道の30.6%、全国の33.8%に対して石狩市は34.8%で、全道より4.2ポイント、全国より1.0ポイント高くなっています。
- ・「あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の35.9%、全国の41.3%に対して石狩市は37.5%で、全道より1.6ポイント高く、全国より3.8ポイント低くなっています。

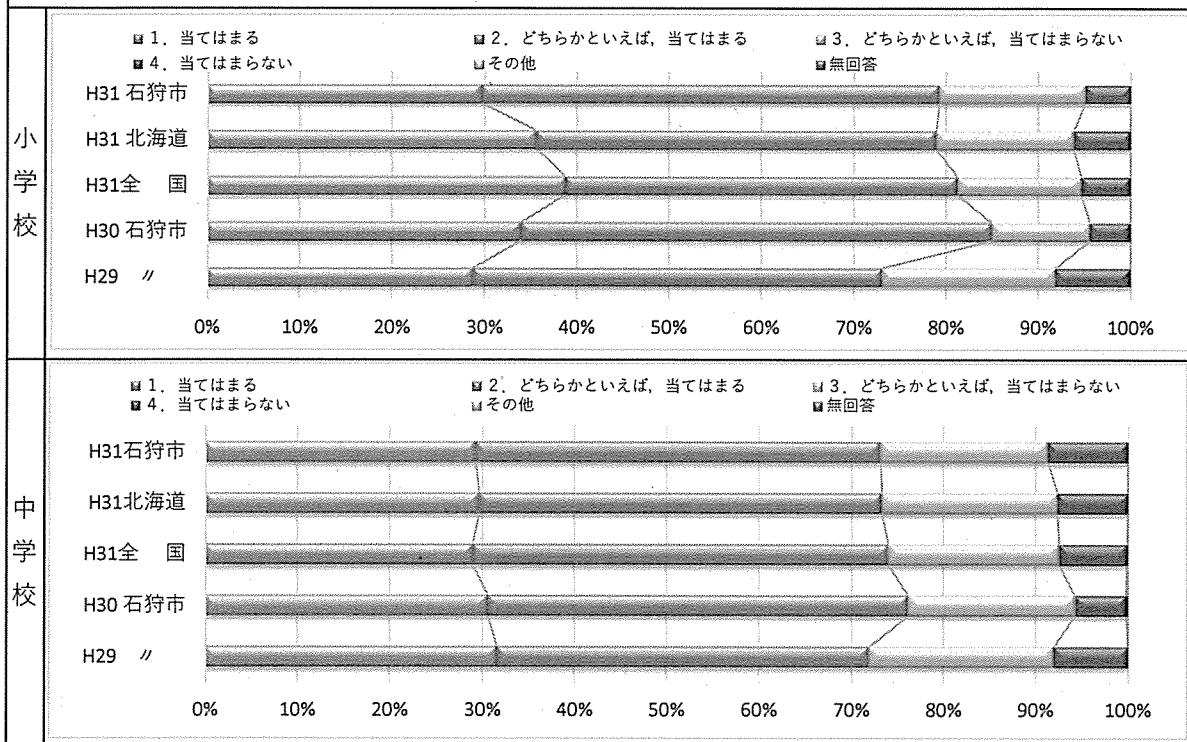
# 平成31（令和元）年度 学習状況調査〔児童・生徒質問紙〕より

## I 自己有用感・規範意識

### 自己有用感は、小学生・中学生ともに全道・全国とほぼ同様の傾向

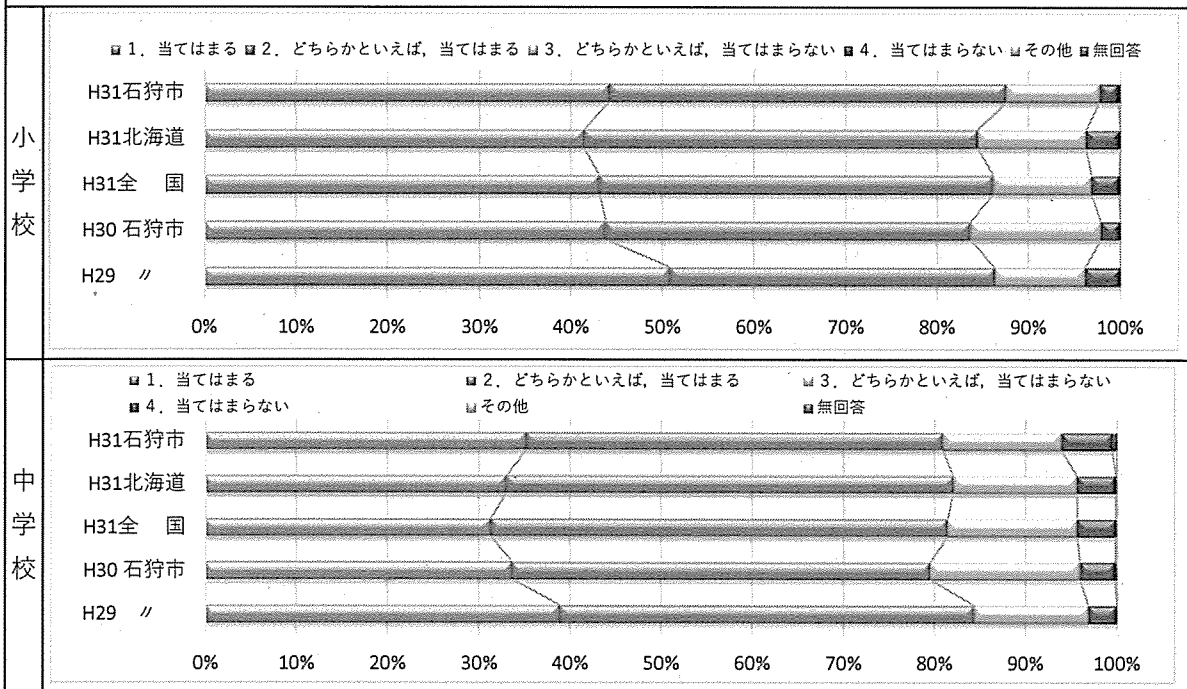
・「自分には、よいところがあると思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で79.3%(全国比-1.9ポイント, 全道比+0.4ポイント)で、中学生では73.2%(全国比-0.9ポイント, 全道比-0.2ポイント)でした。

#### 1. 自分には、よいところがあると思いますか



・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で87.7%(全国比+1.6ポイント, 全道比+3.3ポイント)で中学生では80.9%(全国比-0.6ポイント, 全道比-1.2ポイント)でした。

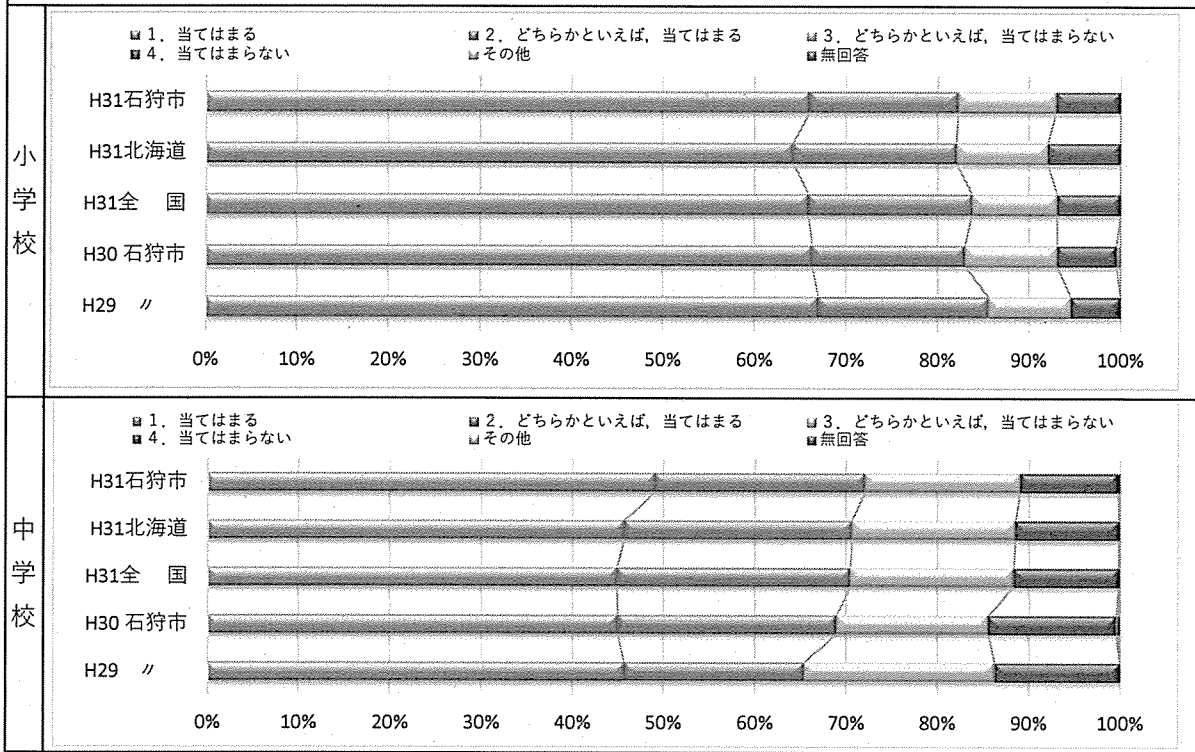
#### 2. 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



**将来に関する意識は、小学生・中学生共に全道・全国とほぼ同様の傾向**

・「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で82.2%(全国比-1.6ポイント, 全道比+0.2ポイント)で中学生では72.1%(全国比+1.6ポイント, 全道比+1.5ポイント)でした。

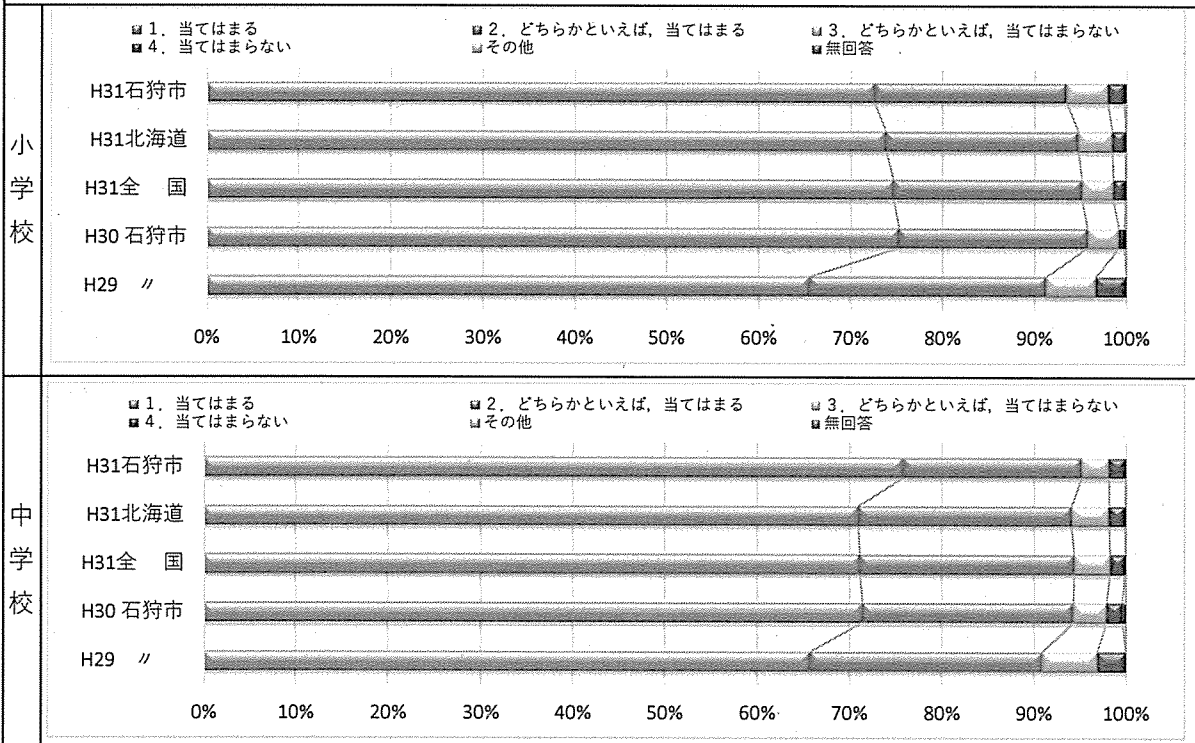
**3. 将来の夢や目標を持っていますか**



**人の役に立ちたいと思う小学生・中学生は全国とほぼ同様に9割超**

・「人の役に立つ人間になりたいと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で93.6%(全国比-1.6ポイント, 全道比-1.1ポイント)で、中学生では95.2%(全国比+0.9ポイント, 全道比+1.2ポイント)でした。

**4. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか**

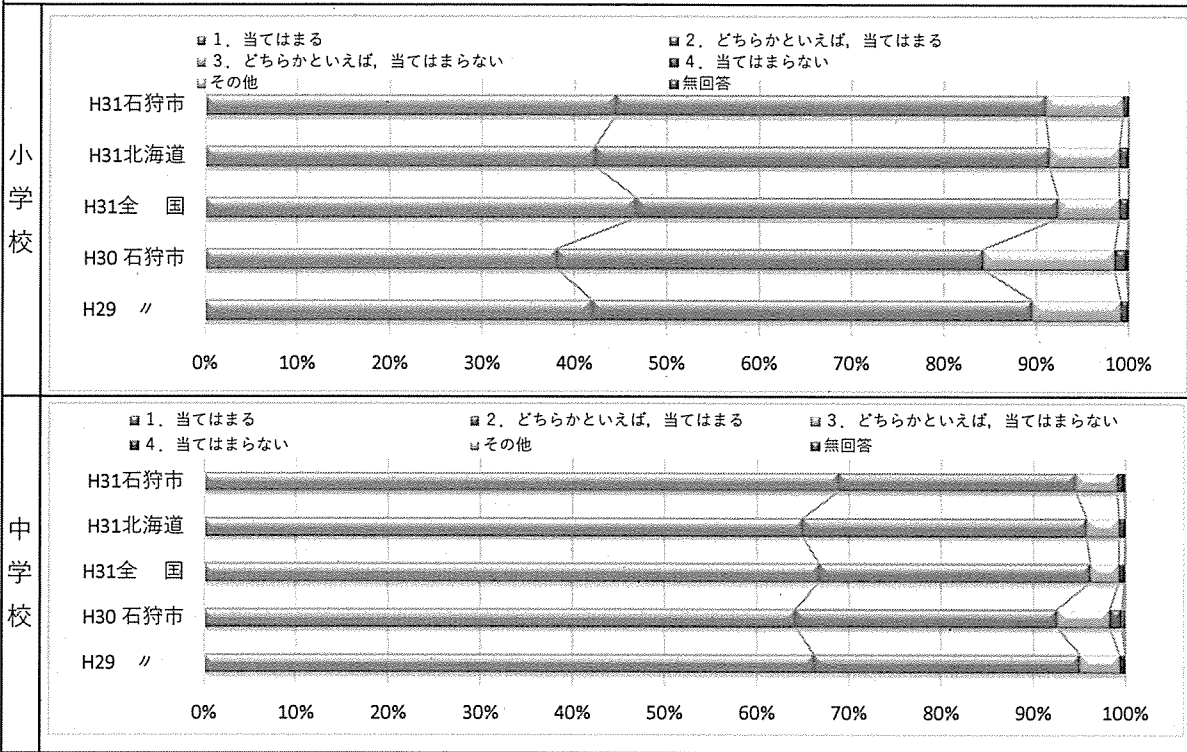




## 規範意識は、中学生ほど高くなる傾向

・「学校のきまりを守っている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で91.1%(全国比-1.3ポイント, 全道比-0.4ポイント)で中学生では94.6%(全国比-1.6ポイント, 全道比-1.1ポイント)でした。

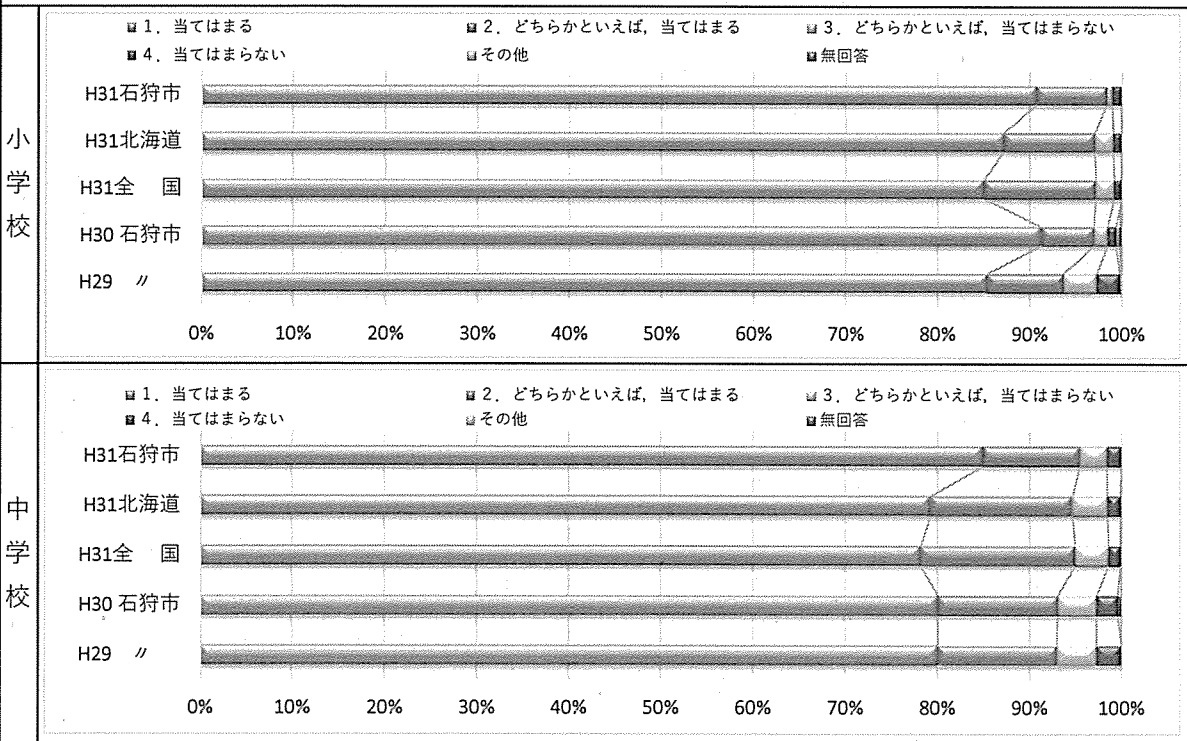
### 5. 学校のきまり(規則)を守っていますか



## いじめに対する意識は高く、定着しつつも、なお継続して取り組むべき課題

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で98.4%(全国比+1.3ポイント, 全道比+1.3ポイント)で、中学生では95.5%(全国比+0.4ポイント, 全道比+0.8ポイント)でした。

### 6. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

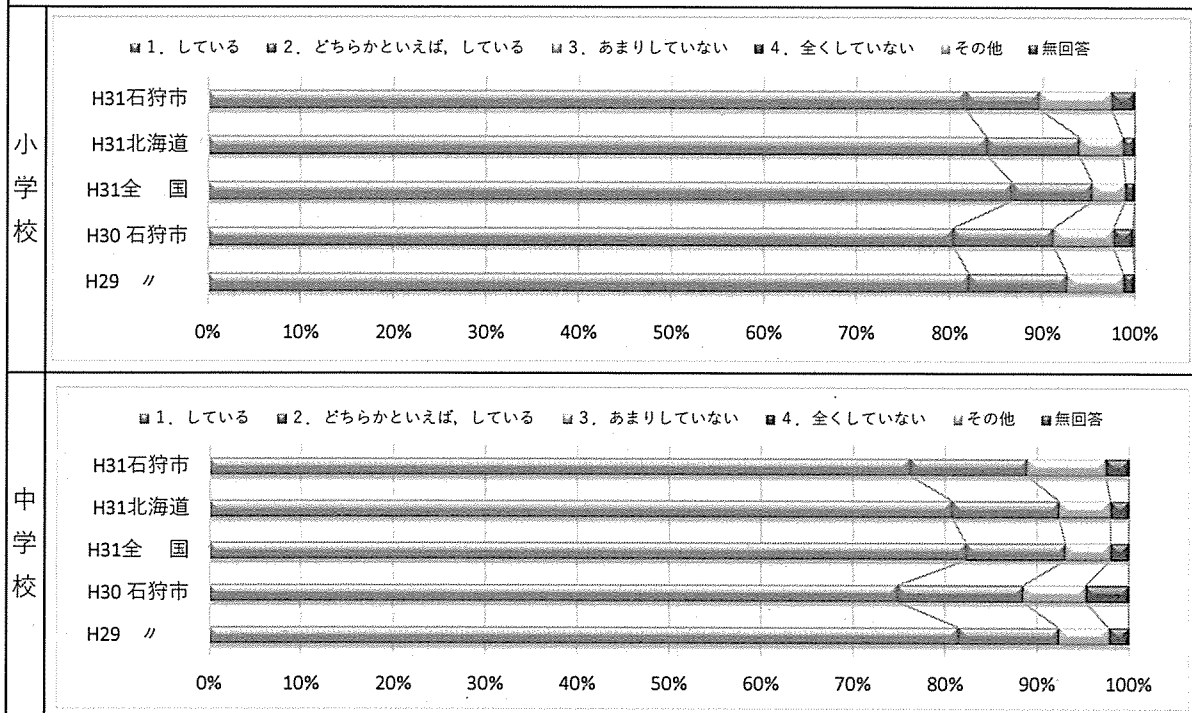


## II 基本的な生活習慣

### 正しい食習慣を身につけるための継続した取組が喫緊の課題

・「朝食を毎日食べている・どちらかといえば食べている」割合は、小学生で89.6%(全国比-5.7ポイント, 全道比-4.4ポイント)で、中学生では、89.0%(全国比-4.1ポイント, 全道比-3.4ポイント)でした。

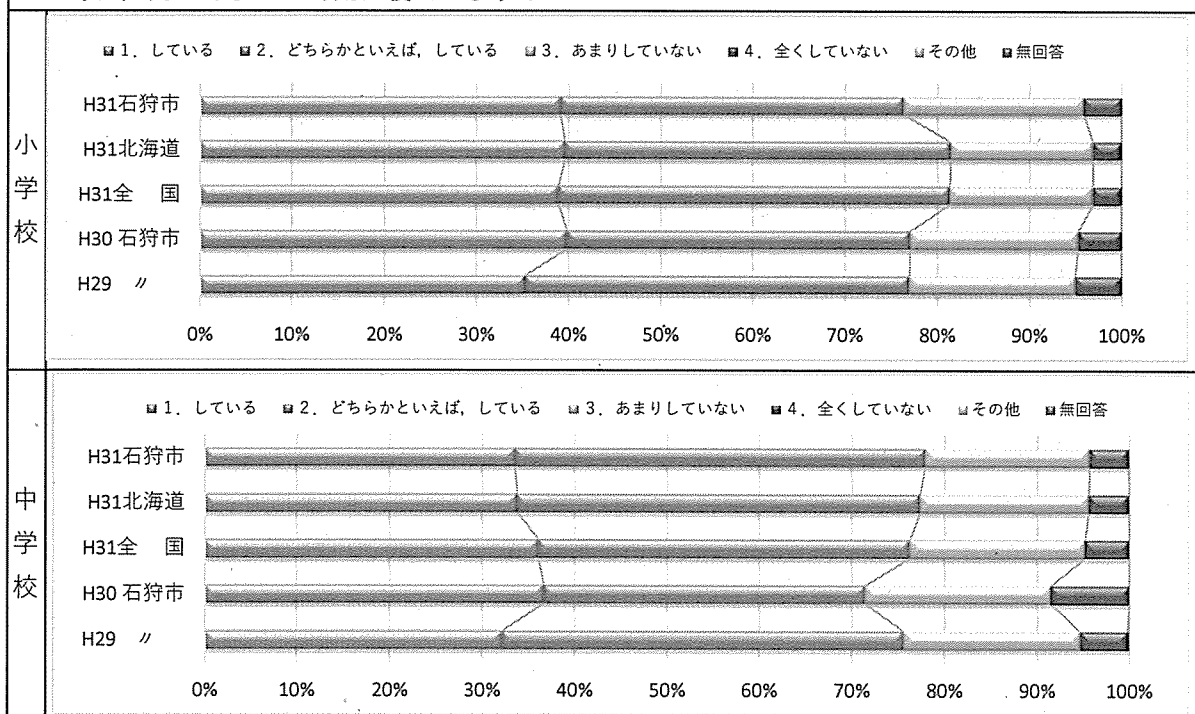
#### 7. 朝食を毎日食べていますか



### 就寝・起床時刻等の生活リズムの定着は小学生・中学生ともに課題

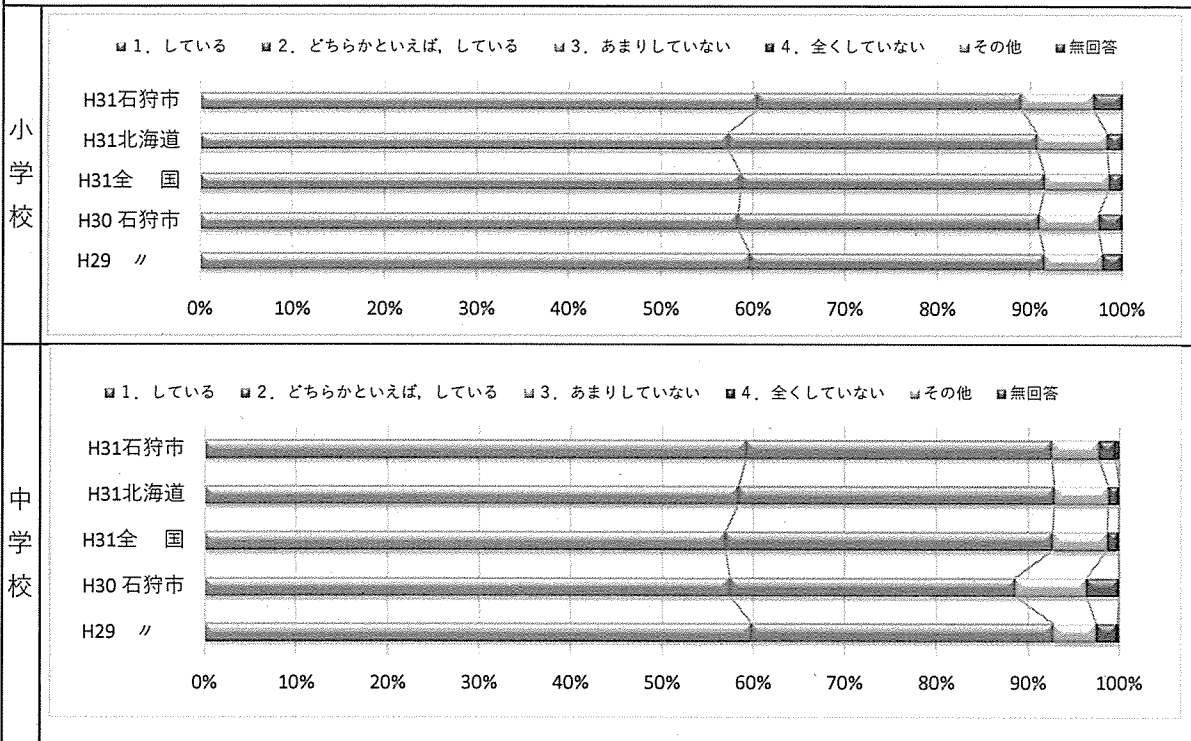
・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で76.4%(全国比-5.0ポイント, 全道比-5.1ポイント)で、中学生では、78.0%(全国比+1.7ポイント, 全道比+0.6ポイント)でした。

#### 8. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



・「毎日、同じくらいの時刻に起きている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で89.0%(全国比-2.6ポイント、全道比-1.8ポイント)で、中学生では、92.7%(全国比-0.1ポイント、全道比-0.2ポイント)でした。

### 9. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

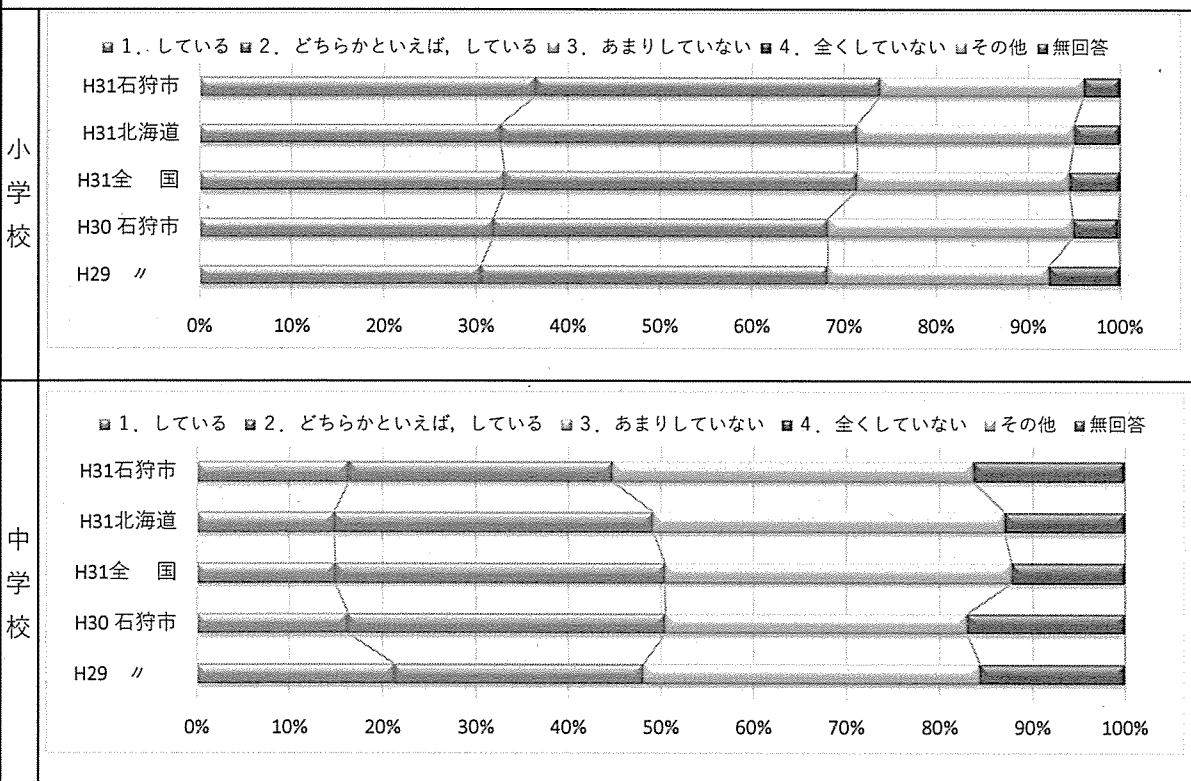


## III 学習習慣・読書習慣

### 家庭学習は小学生で積極的な取組傾向

・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で74.0%(全国比+2.5ポイント、全道比+2.7ポイント)で、中学生では44.8%(全国比-5.6ポイント、全道比-4.4ポイント)でした。

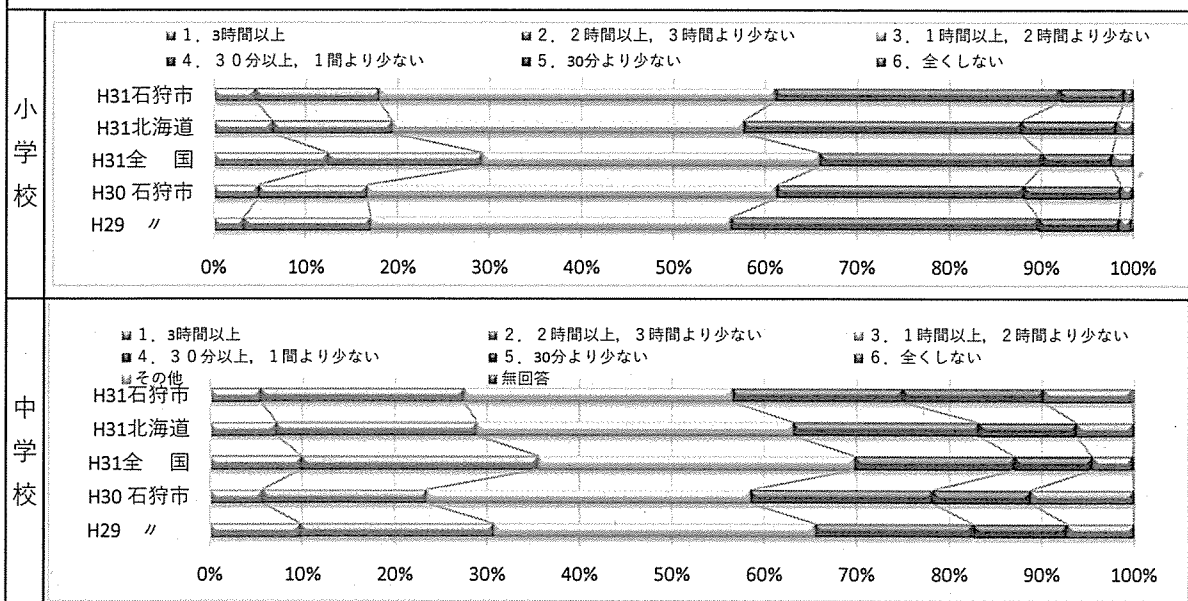
### 10. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



## 平日の家庭学習時間は全国より少なく、特に中学生が課題

・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「1時間以上勉強する」と回答している小学生の割合は、61.2%(全国比-4.9ポイント、全道比+3.6ポイント)で、1日当たり「2時間以上勉強する」と回答している中学生の割合は27.5%(全国比-8.0ポイント、全道比-1.4ポイント)でした。

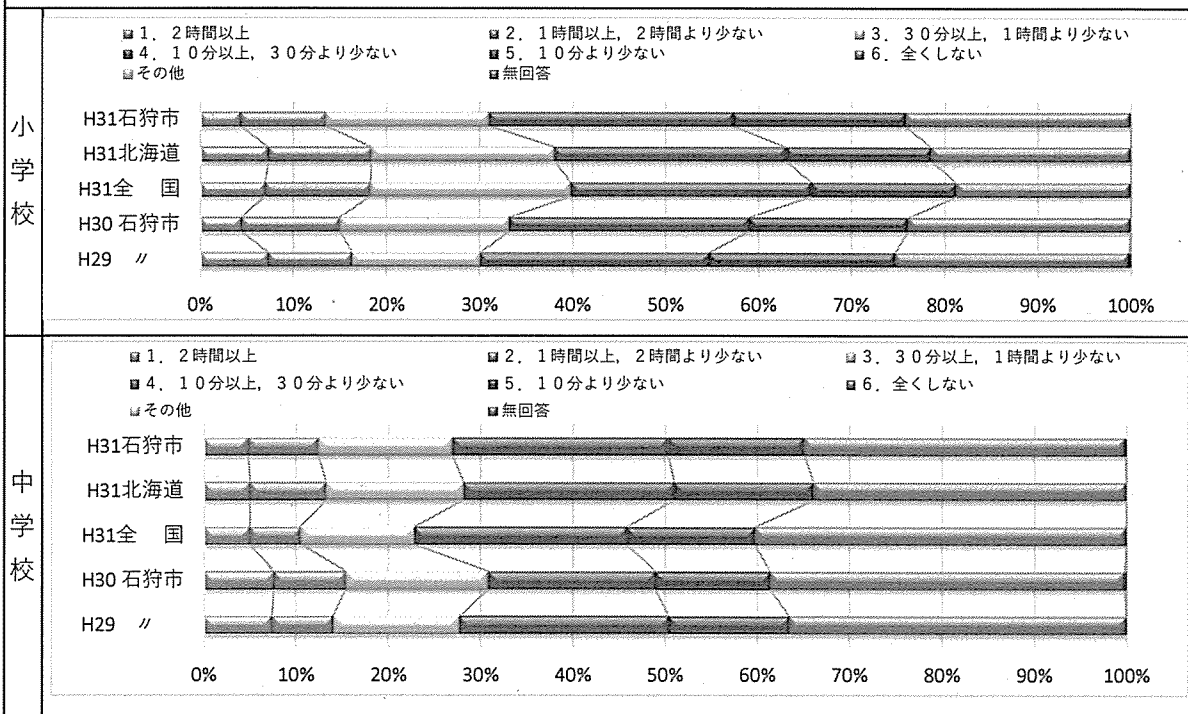
### 1 1. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



### 30分以上読書する小学生・中学生ともに3割程度で課題

・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「30分以上読書をする」割合は、小学生で31.1%(全国比-8.7ポイント、全道比-7.0ポイント)で、中学生では、27.0%(全国比+4.2ポイント、全道比-1.1ポイント)でした。

### 1 2. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)

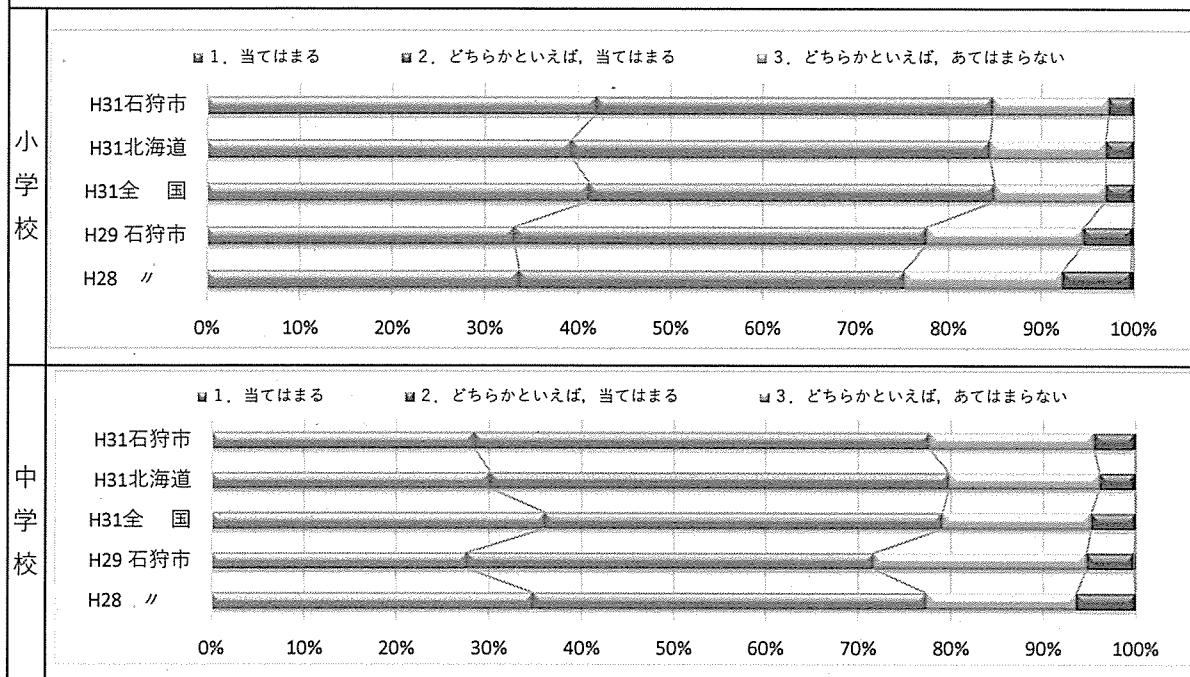


## IV 学習に対する興味・関心や理解度等

### 「国語の授業内容が分かる」児童生徒は、小学生で前回調査より増加

・「国語の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で84.8%(全国比-0.1ポイント、全道比+0.4ポイント)で、中学生では77.6%(全国比-1.5ポイント、全道比-2.3ポイント)でした。

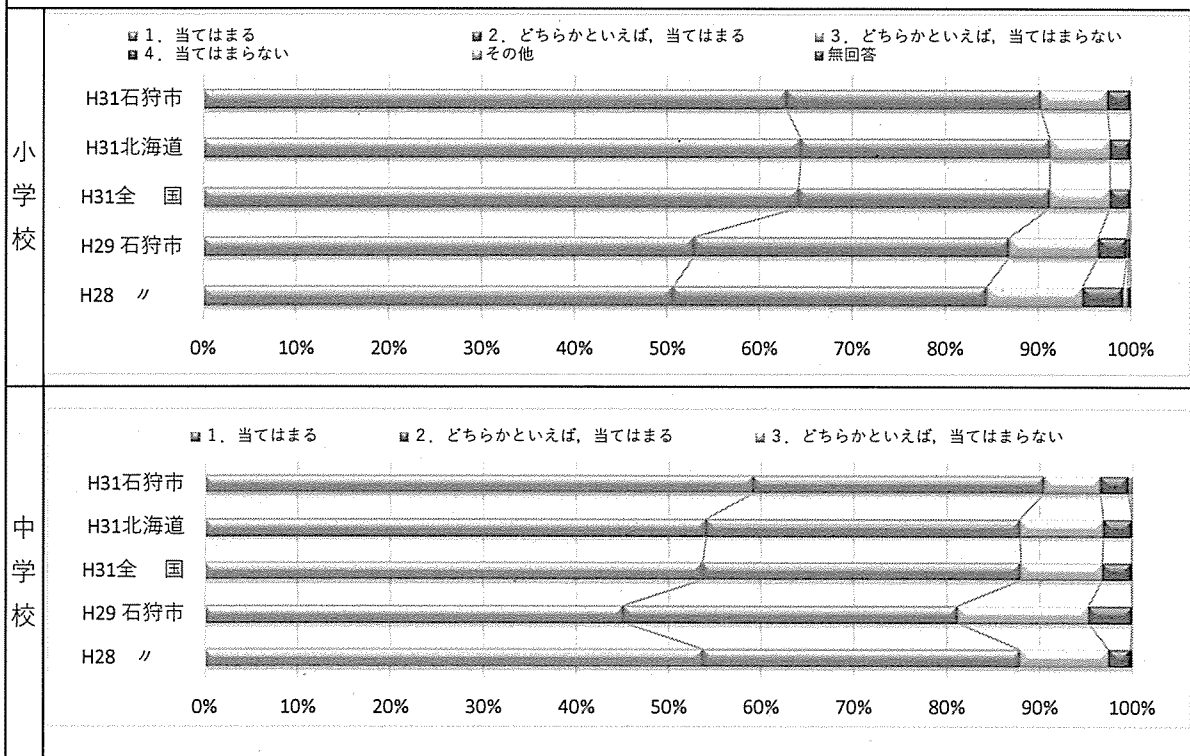
#### 1.3. 国語の授業の内容はよく分かりますか



### 「国語の学習は将来、役に立つ」と思う小中学生は、ともに9割超

・「国語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で90.2%(全国比-1.0ポイント、全道比-1.1ポイント)で、中学生では90.6%(全国比+2.6ポイント、全道比+2.7ポイント)でした。

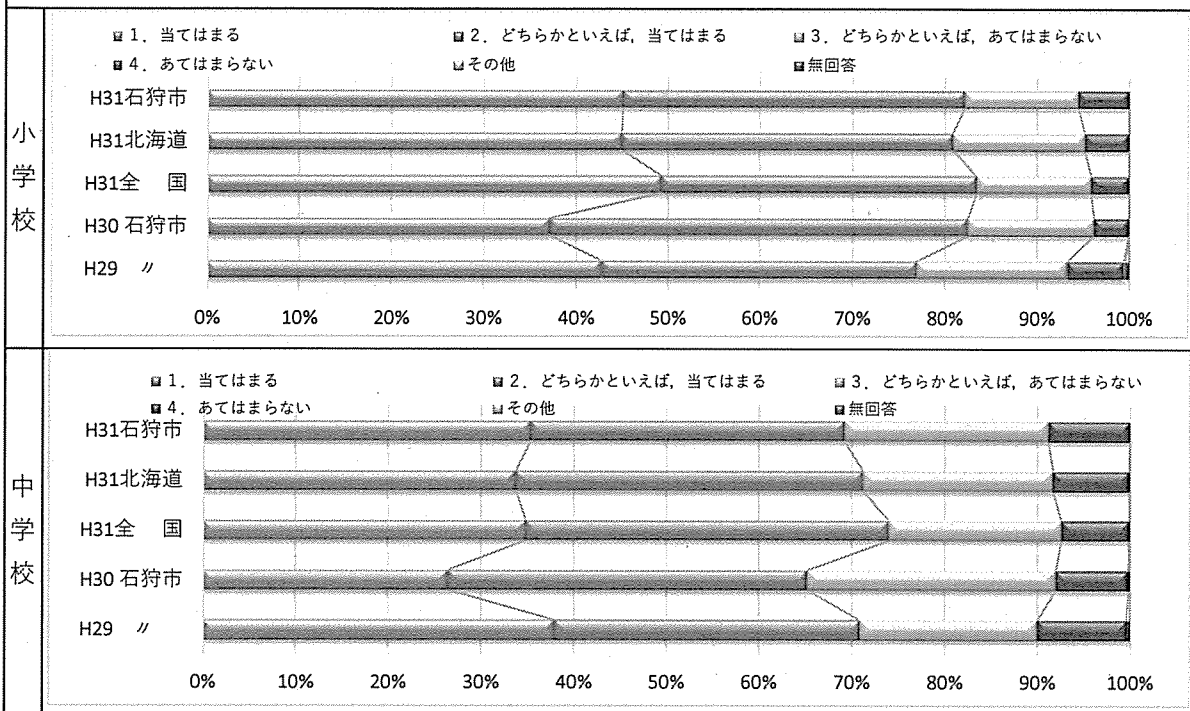
#### 1.4. 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



「算数・数学の授業内容が分かる」児童生徒は、小学生が全国とほぼ同様で、中学生は課題

・「算数・数学の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で82.2%(全国比-1.3ポイント、全道比+1.4ポイント)で、中学生では69.3%(全国比-4.6ポイント、全道比-2.0ポイント)でした。

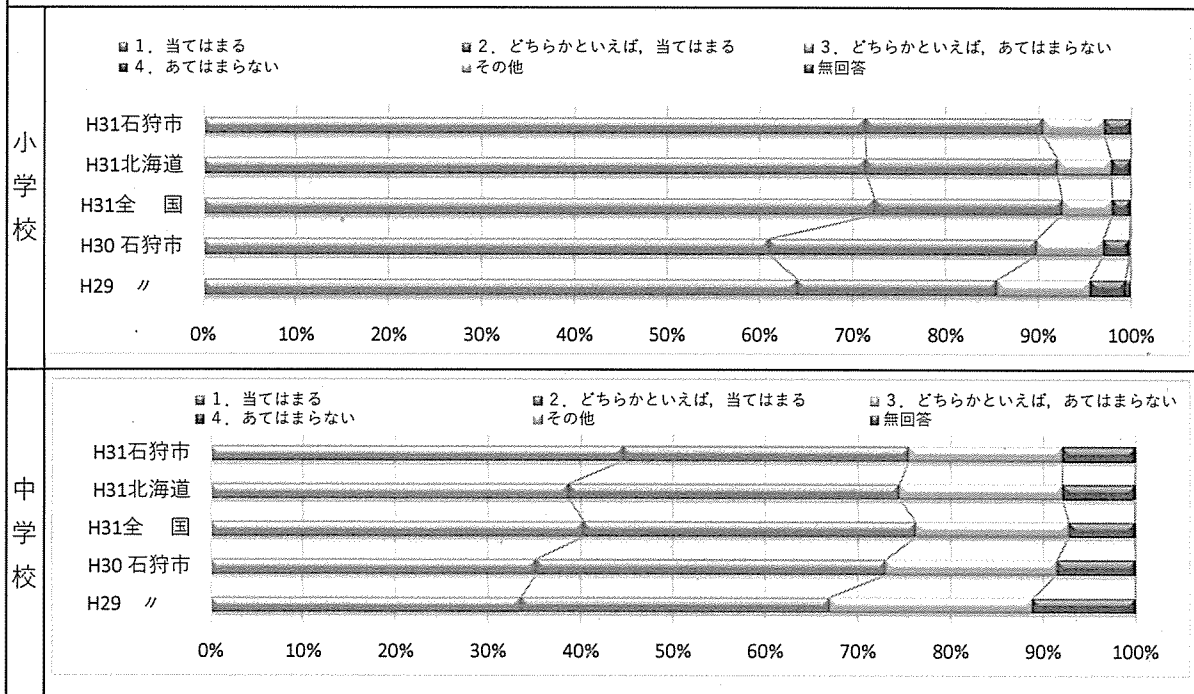
15. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



「算数・数学の学習は将来、役に立つ」と思う児童生徒は、ともに全道・全国と同様

・「算数・数学の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で90.4%(全国比-2.1ポイント、全道比-1.6ポイント)で、中学生では75.5%(全国比-0.7ポイント、全道比+1.0ポイント)でした。

16. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

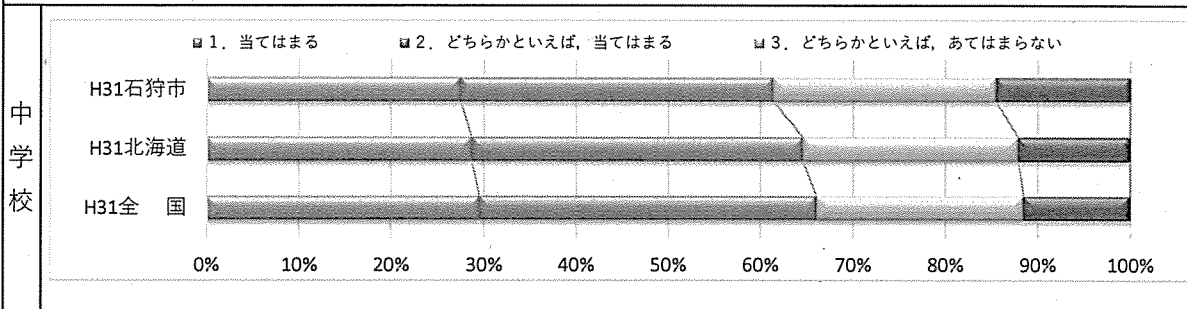




**「英語の授業内容が分かる」生徒の割合は、全国よりやや少ない傾向**

・「英語の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」生徒の割合は、61.4%(全国比-4.6ポイント、全道比-3.2ポイント)でした。

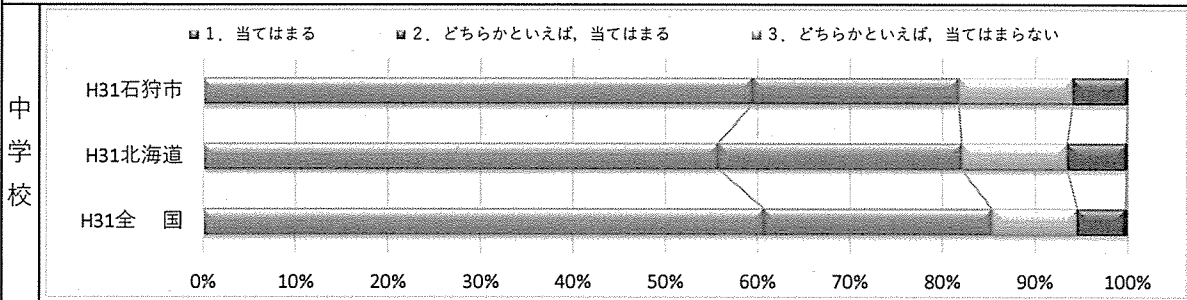
**17. 英語の授業の内容はよく分かりますか**



**「英語の学習は将来、役に立つ」生徒の割合は、全国よりやや少ない傾向**

・「英語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ・どちらかといえば当てはまる」生徒の割合は、81.8%(全国比-3.6ポイン、全道比-0.3ポイント)でした。

**18. 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか**

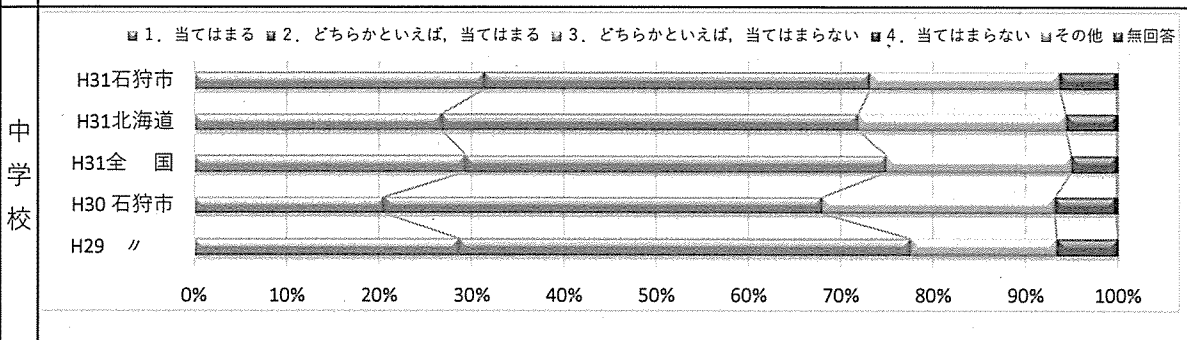
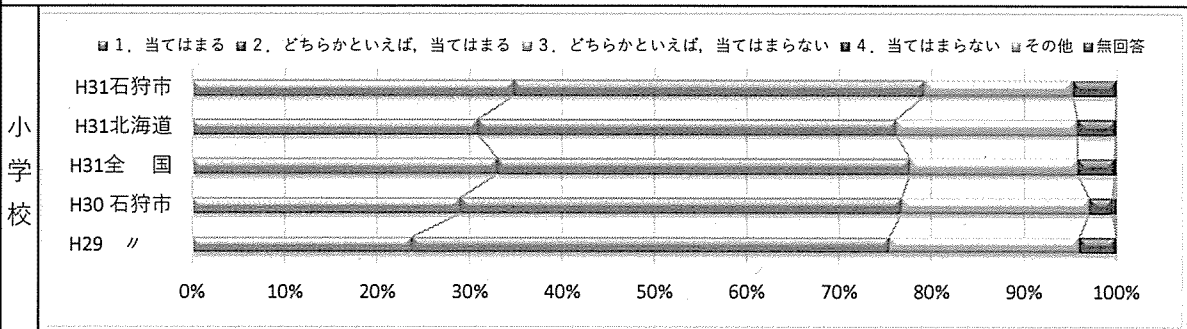


**V 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**

**課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む小学生は、増加傾向**

・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う・どちらかといえばそう思う」割合は、小学生で79.3%(全国比+1.6ポイント、全道比+3.1ポイント)で、中学生では73.2%(全国比-1.6ポイント、全道比+1.3ポイント)でした。

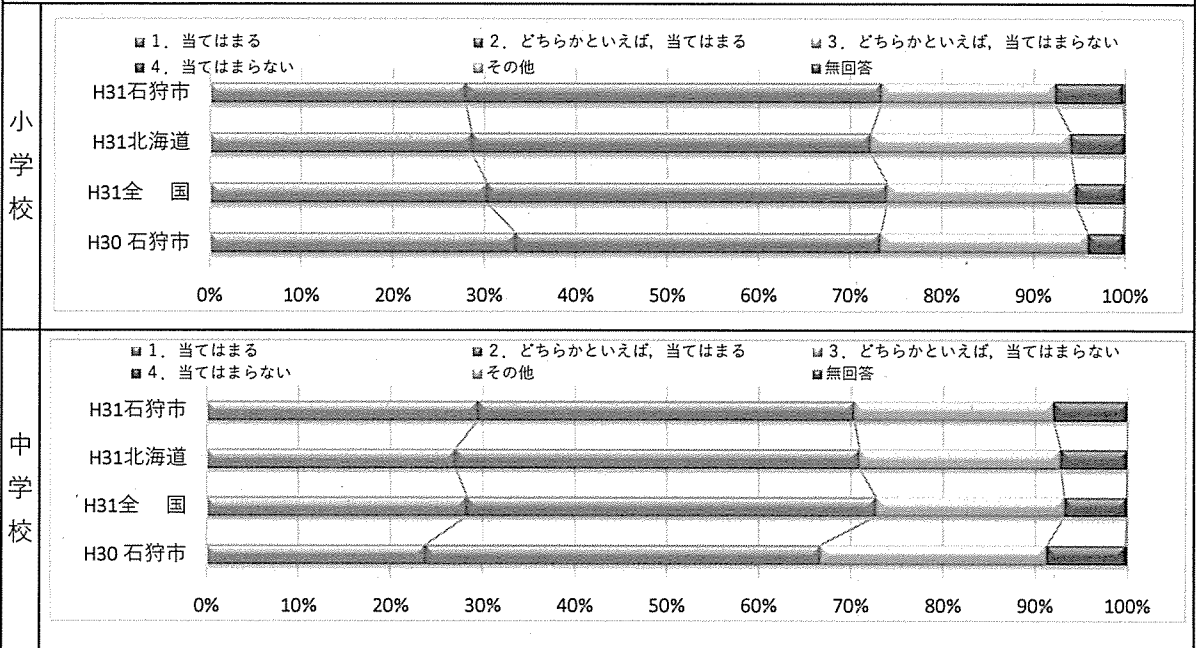
**19. 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか**



**話し合いを通じて考えを深めたり、広げたりする授業づくりは今後の課題**

・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で73.4%(全国比-0.7ポイント、全道比+1.1ポイント)で、中学生では70.4%(全国比-2.4ポイント、全道比-0.5ポイント)でした。

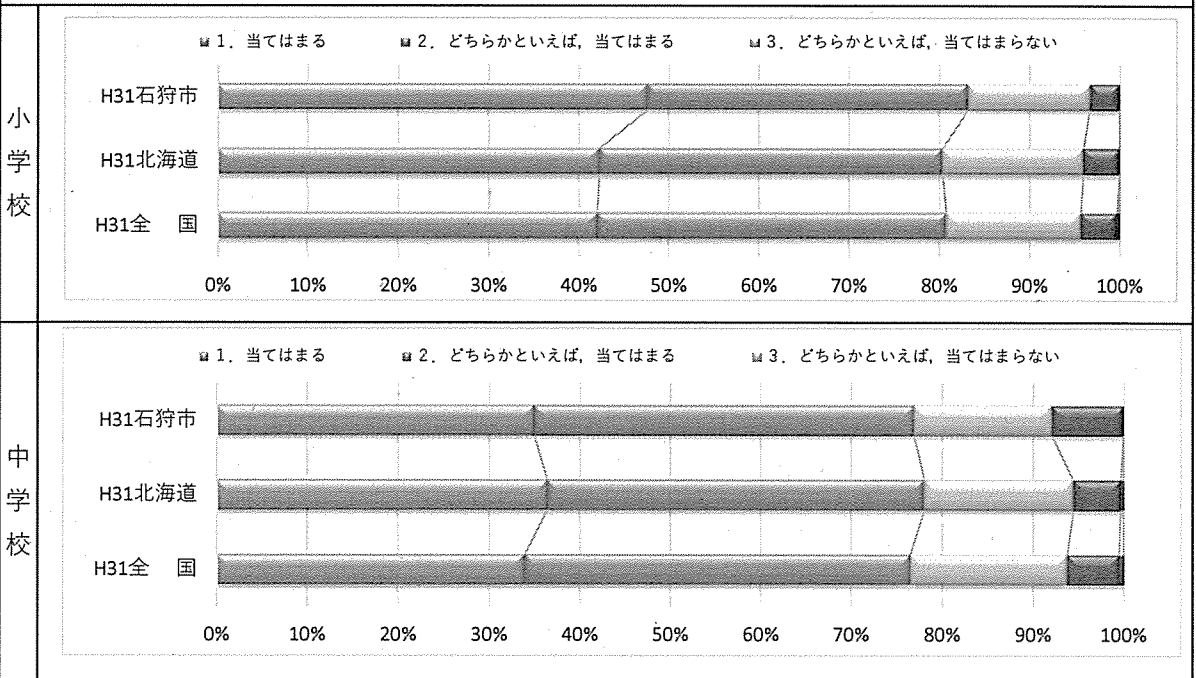
**2.0. 学級の仲間との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか**



**道徳の授業で自分の考えを深めたり、話し合ったりする取組は小学校で浸透**

・「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で83.2%(全国比+2.3ポイント、全道比+2.8ポイント)で、中学生では77.0%(全国比+0.4ポイント、全道比-1.0ポイント)でした。

**2.1. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか**



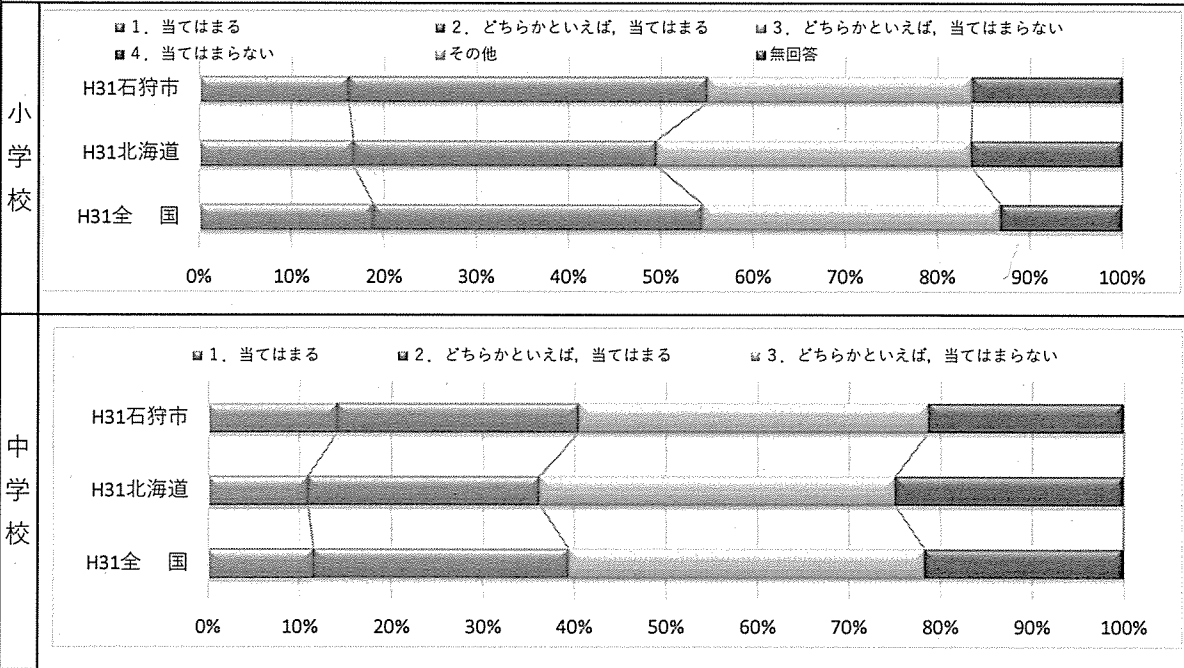


## VI 地域や社会への関心

### 地域や社会への関心は、小中学生ともに全道よりも高い傾向

・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある・どちらかといえば当てはまる」割合は小学生で55.1%(全国比+0.6ポイント、全道比+5.5ポイント)で、中学生では40.5%(全国比+1.1ポイント、全道比+4.3ポイント)でした。

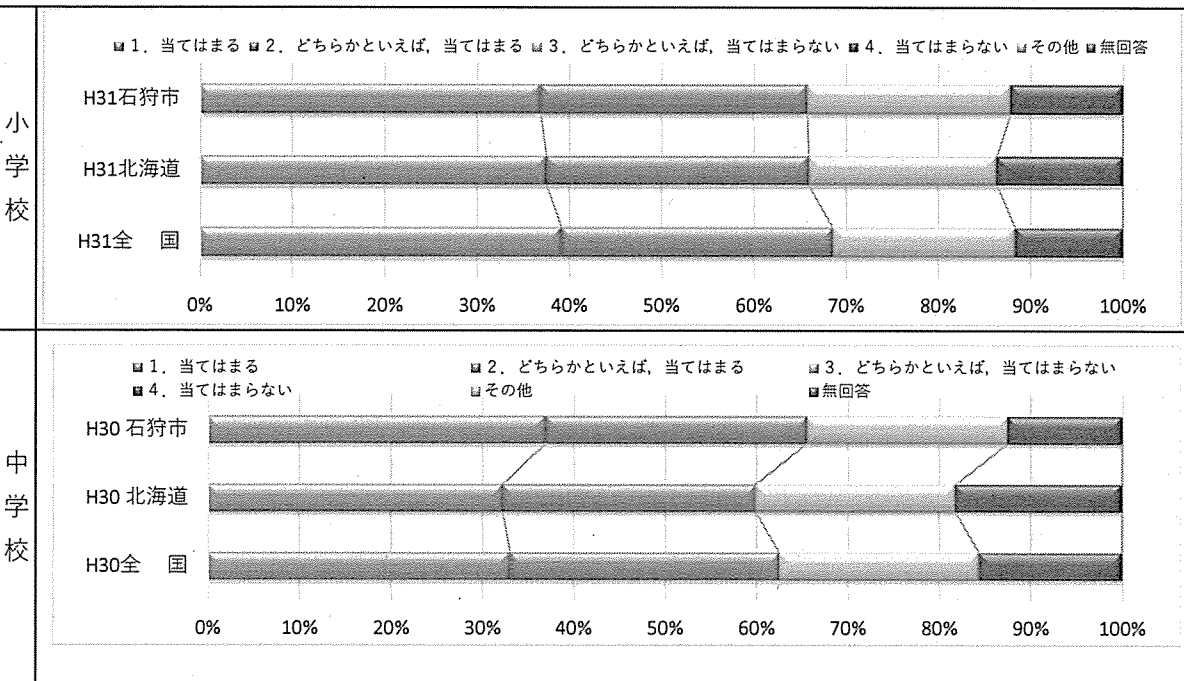
#### 2.2. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



### 国際理解への関心は中学生で、全道・全国を上回る傾向

・「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい、どちらかといえば当てはまる」割合は小学生で65.8%(全国比-2.8ポイント、全道比-0.1ポイント)で、中学生では65.6%(全国比+3.2ポイント、全道比+5.7ポイント)でした。

#### 2.3. 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いますか



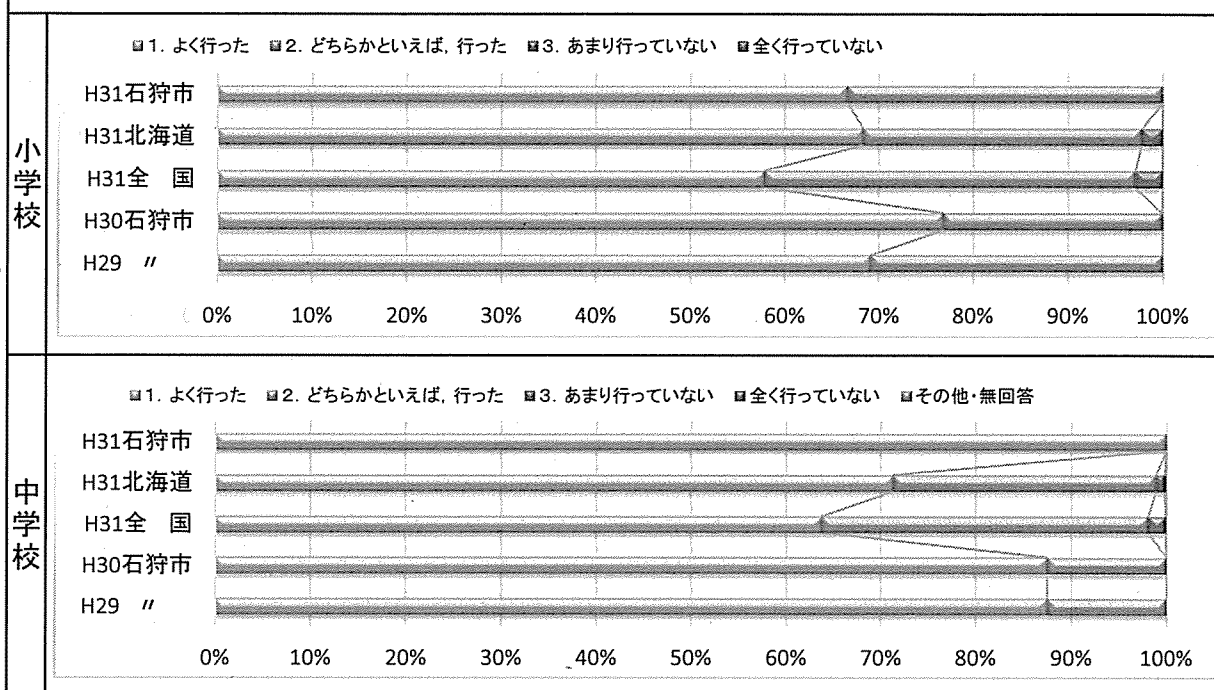
# 平成31（令和元）年度 学習状況調査〔学校質問紙〕より

## I 規範意識・自己有用感

### 学習規律は小学校、中学校ともに定着

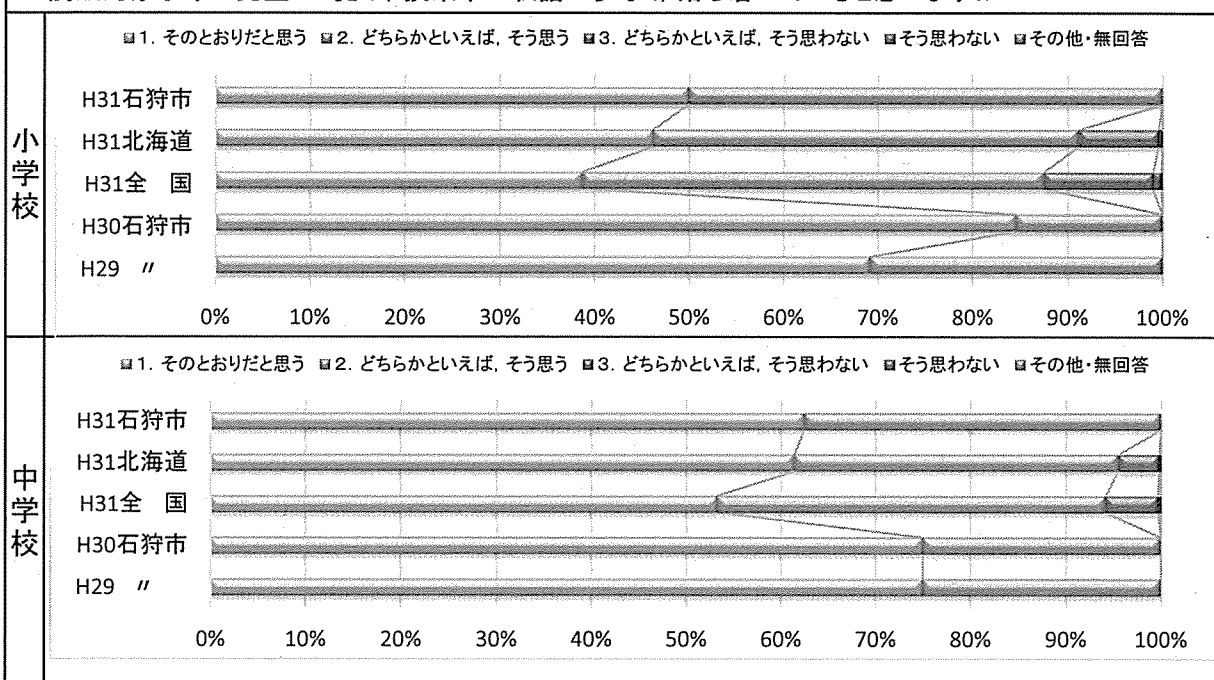
・「学習規律の維持を徹底してよく行った」の割合は、小学校で66.7%(全国比+8.9ポイント, 全道比-1.6ポイント)で、中学校では、100%(全国比+36.2ポイント, 全道比+28.6ポイント)でした。

1. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか



・「私語がなく落ち着いている」割合は、小学校で50.0%(全国比+11.2ポイント, 全道比+3.8ポイント)で、中学校では62.5%(全国比+9.3ポイント, 全道比+1.0ポイント)でした。

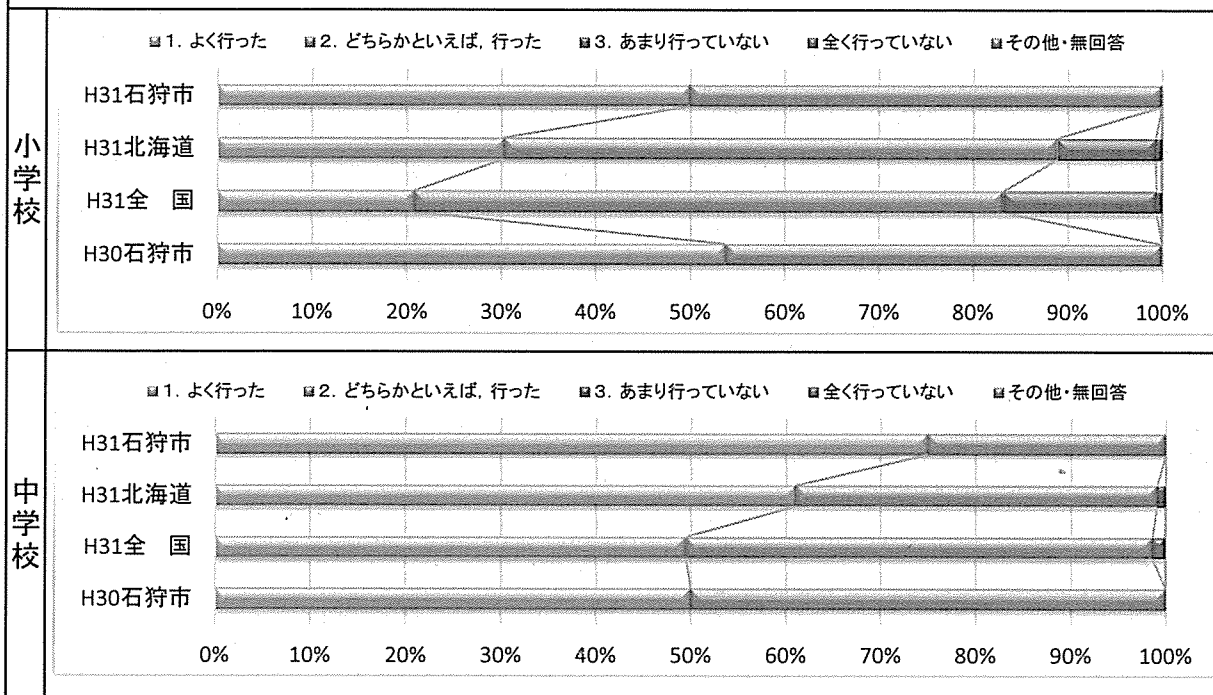
2. 調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



## 自己有用感を育てる教育は今後も継続した取組が必要

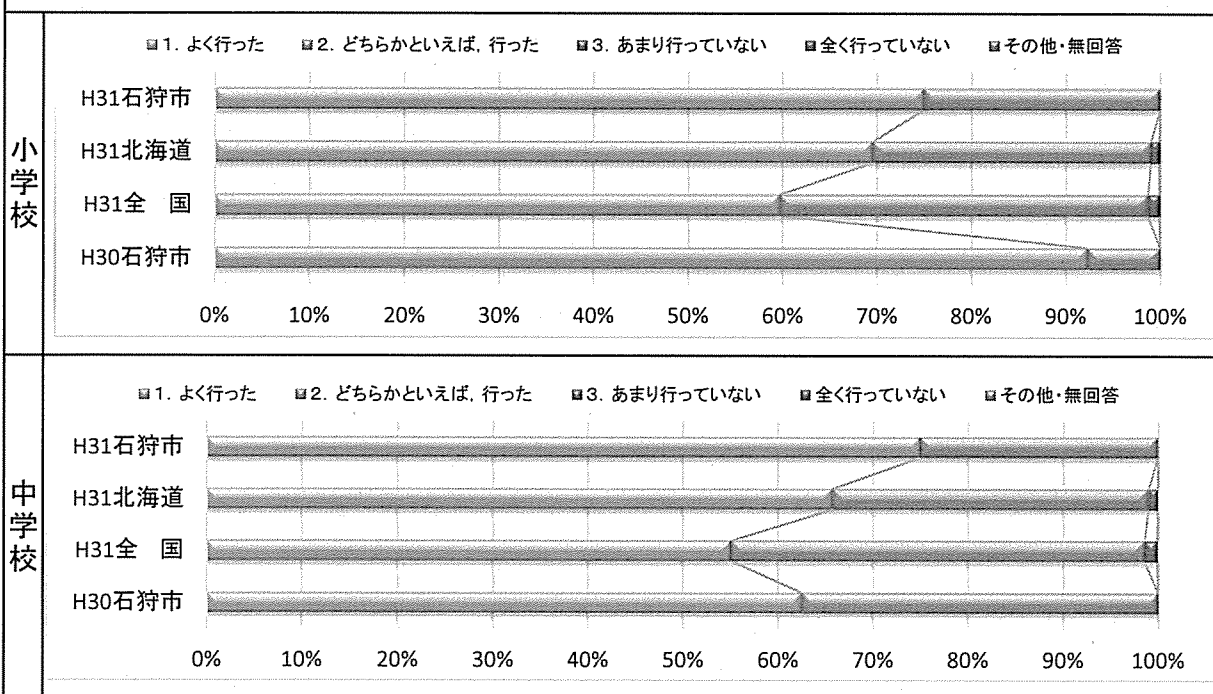
・「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行っている」割合は、小学校で50.0%(全国比+29.2ポイント、全道比+19.7ポイント)で、中学校では75.0%(全国比+25.5ポイント、全道比+13.9ポイント)でした。

### 3. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



・「一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組」の割合は、小学校で75.0% (全国比+15.2ポイント、全道比+5.4ポイント)で、中学校では75.0% (全国比+19.9ポイント、全道比+9.2ポイント)でした。

### 4. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか

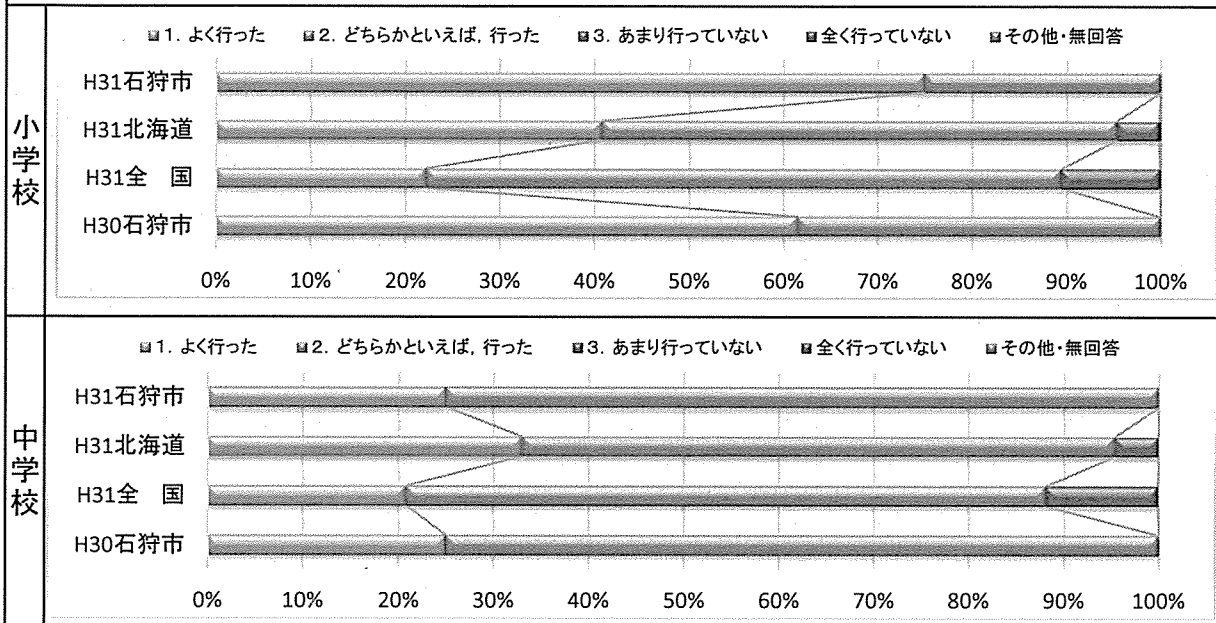


## II 学習指導・授業改善の取組

### 学習指導，授業方法の工夫・改善は継続した取組が肝要

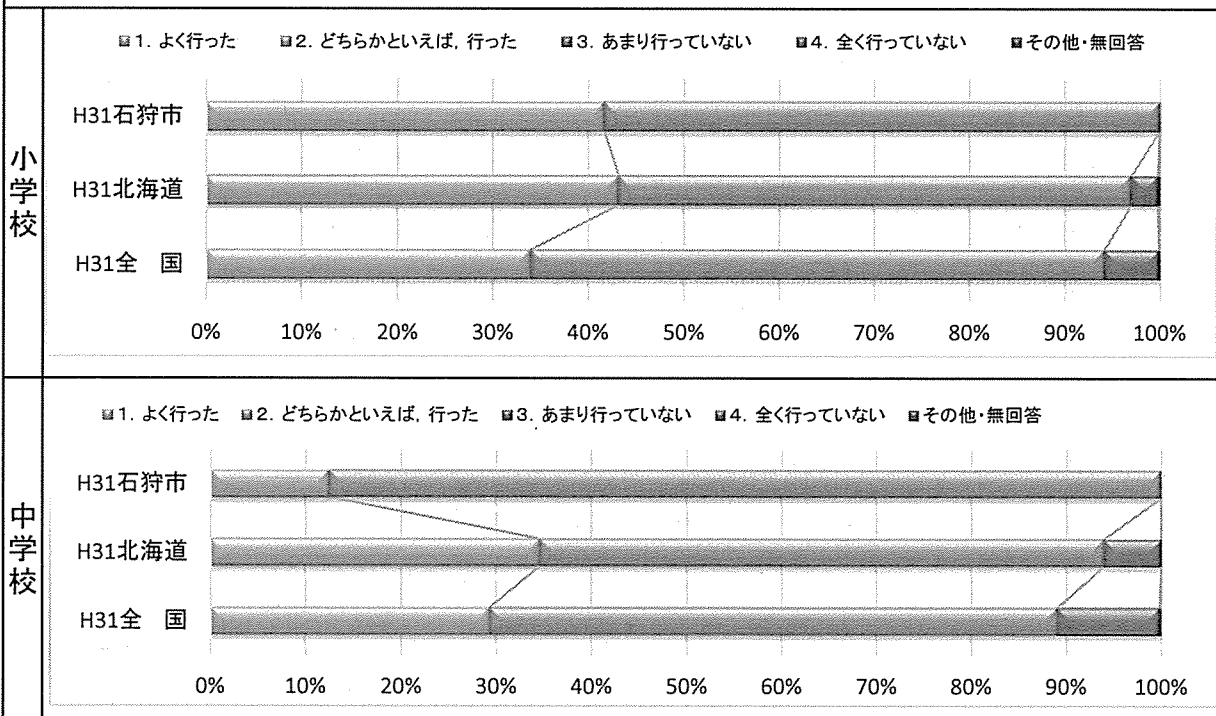
・「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」割合は，小学校で75.0%(全国比+52.8ポイント，全道比+34.2ポイント)で，中学校では25.0%(全国比+4.2ポイント，全道比-8.0ポイント)でした。

#### 5. 調査対象学年の児童・生徒に対して，前年度までに，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をされましたか



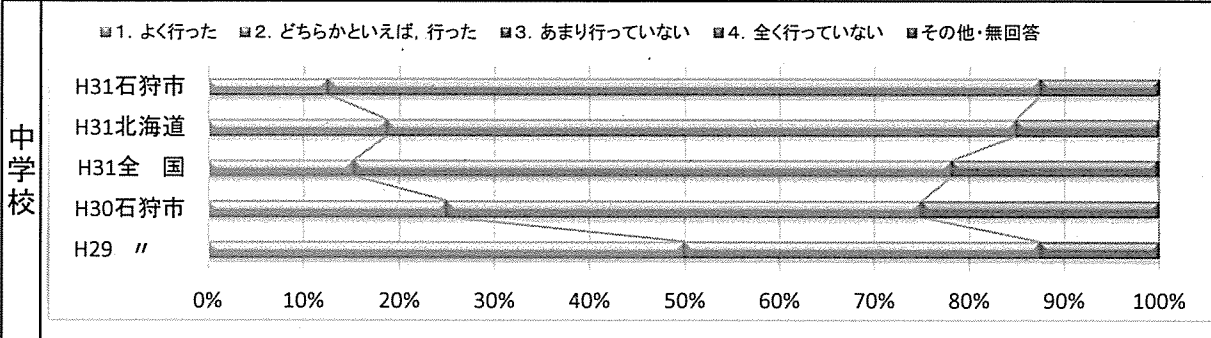
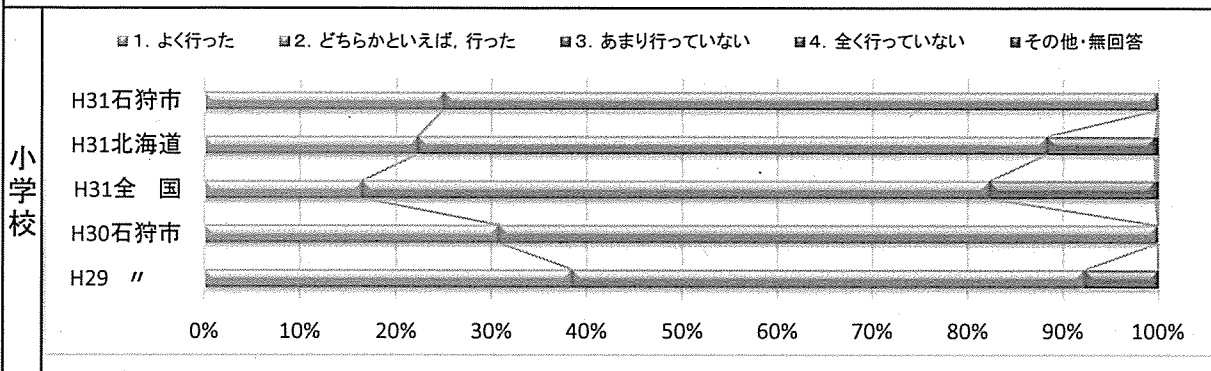
・「国語の指導として，前年度までに，目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をよく行った」割合は，小学校で47.1%(全国比+7.7ポイント，全道比-1.5ポイント)で，中学校では12.5%(全国比-16.8ポイント，全道比-22.1ポイント)でした。

#### 6. 調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか



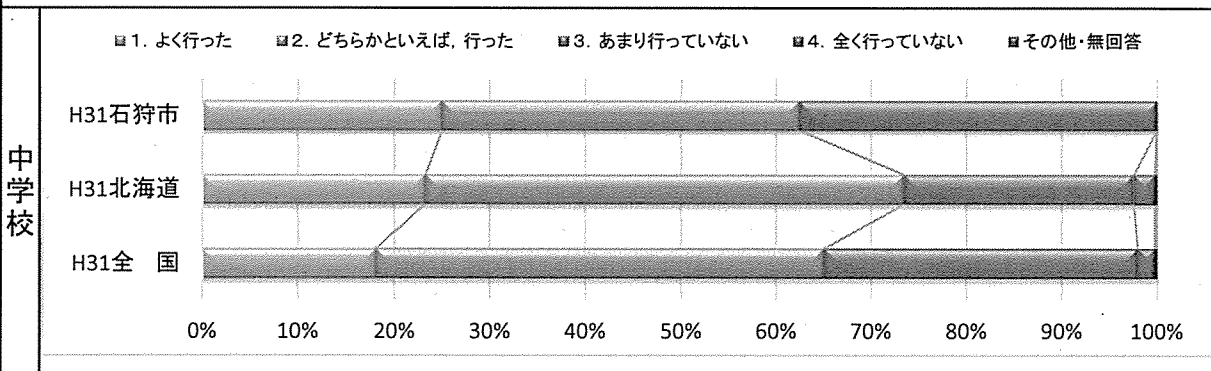
・「算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行った」割合は、小学校で25.0%(全国比+8.5ポイント、全道比+2.7ポイント)で、中学校では12.5%(全国比-2.7ポイント、全道比-6.2ポイント)でした。

7. 調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



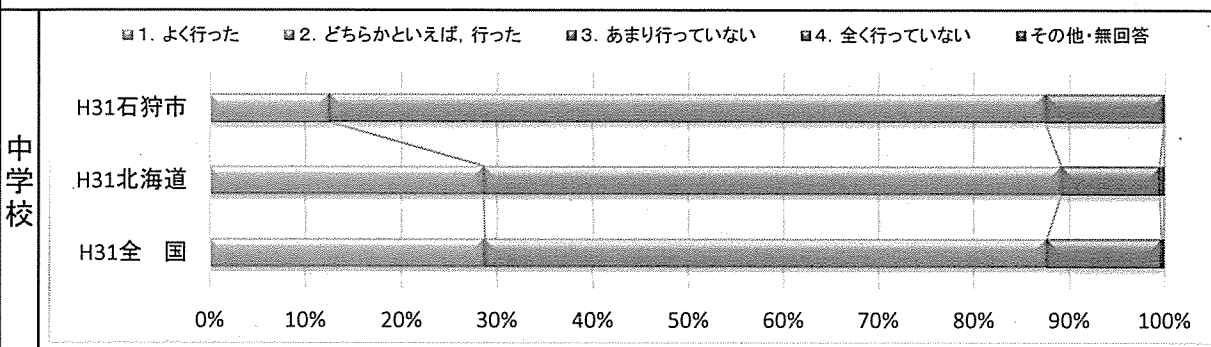
・「英語の指導として、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動をよく行った」割合は、25.0%(全国比+6.9ポイント、全道比+1.7ポイント)でした。

8. 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか



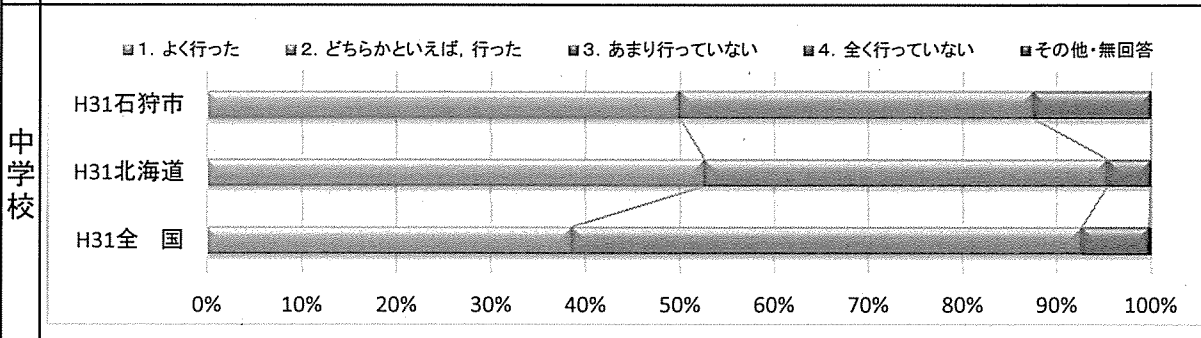
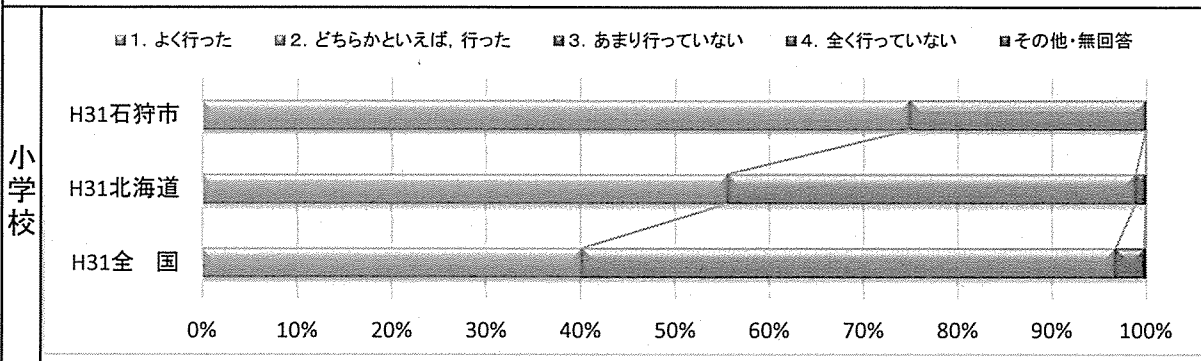
・「調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動をよく行った」割合は、12.5%(全国比-16.2ポイント、全道比-16.1ポイント)でした。

9. 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を行いましたか



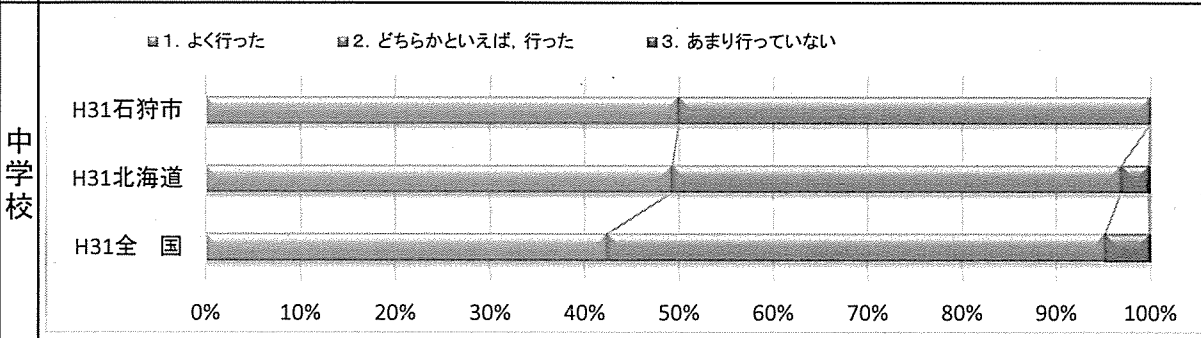
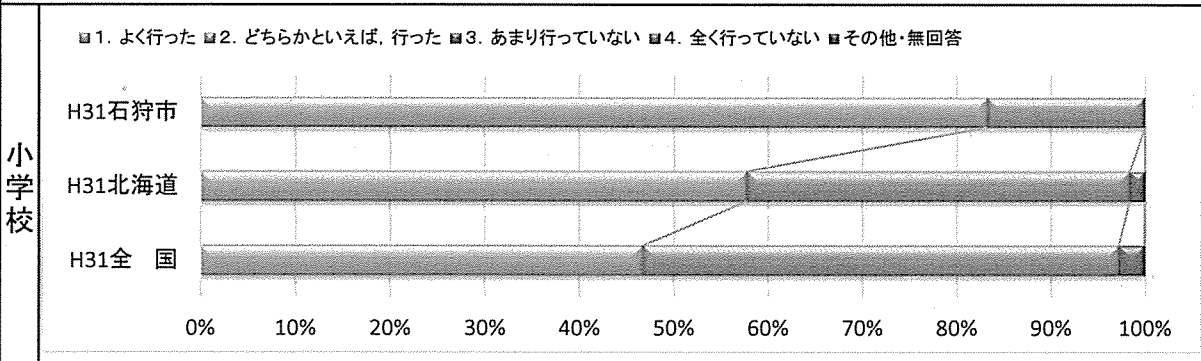
・「特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫を指導をよく行った」割合は、小学校で75.0%(全国比+34.8ポイント、全道比+19.4ポイント)で、中学校では50.0%(全国比+11.4ポイント、全道比-2.6ポイント)でした。

10. 特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



・「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」割合は小学校で83.3%(全国比+36.5ポイント、全道比+25.5ポイント)で、中学校では50.0%(全国比+7.6ポイント、全道比+0.7ポイント)でした。

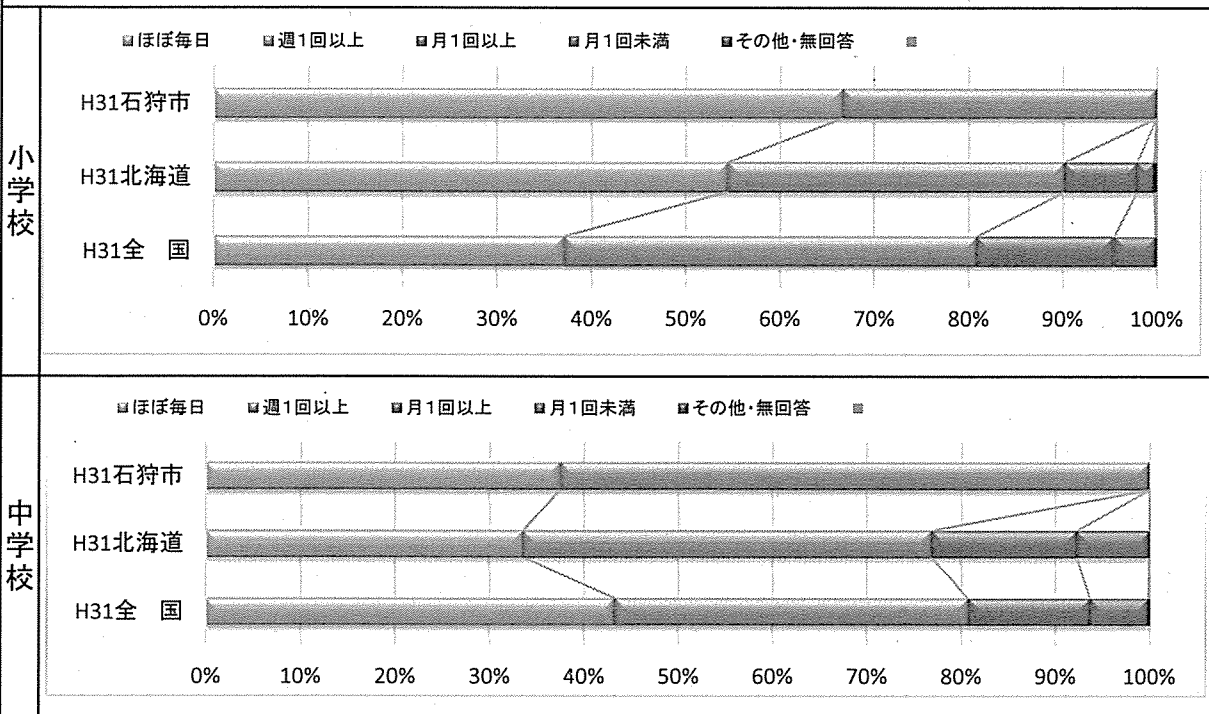
11. 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか





・「教員が大型提示装置(プロジェクター, 電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日行っていた」割合は小学校で66.7%(全国比+29.6ポイント, 全道比+12.2ポイント)で, 中学校では37.5%(全国比-5.8ポイント, 全道比+3.9ポイント)でした。

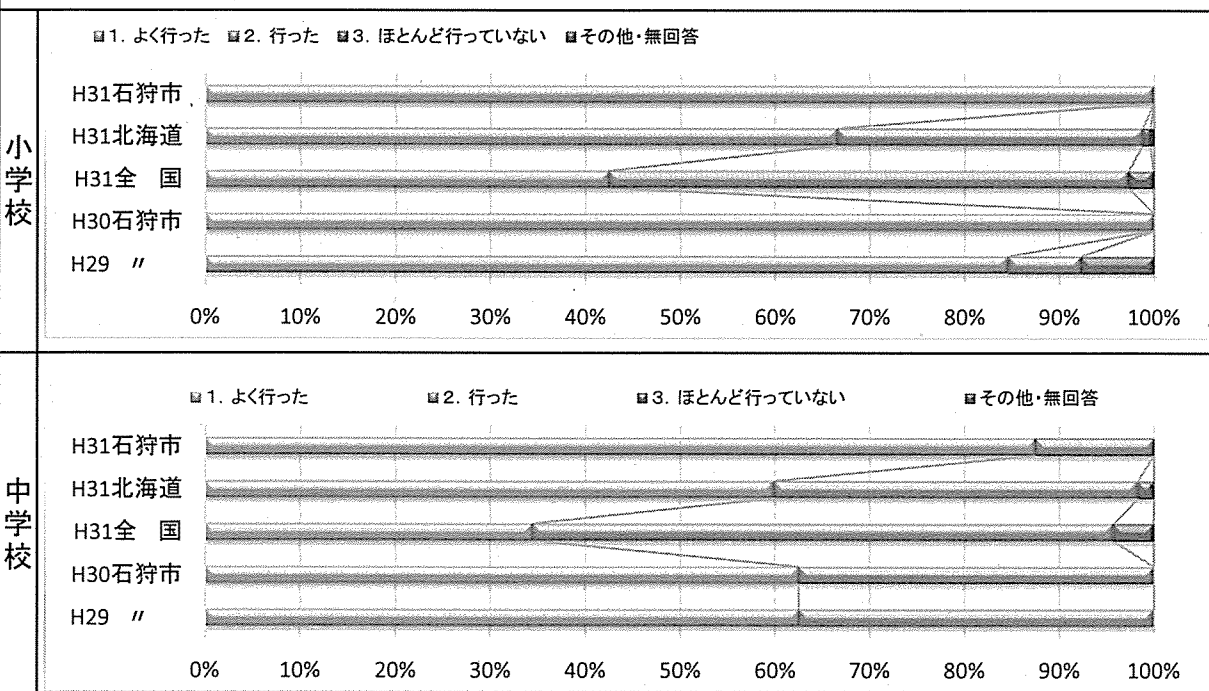
12. 調査対象学年の児童・生徒に対する指導において, 前年度に, 教員が大型提示装置(プロジェクター, 電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



全国学力・学習状況調査の結果については積極的に活用

・「平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について, 調査対象学年・教科だけではなく, 学校全体で教育活動を改善するために活用した」割合は, 小学校で100.0%(全国比+57.5ポイント, 全道比+33.4ポイント)で, 中学校では, 87.5%(全国比+53.0ポイント, 全道比+27.5ポイント)でした。

13. 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について, 調査対象学年・教科だけではなく, 学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

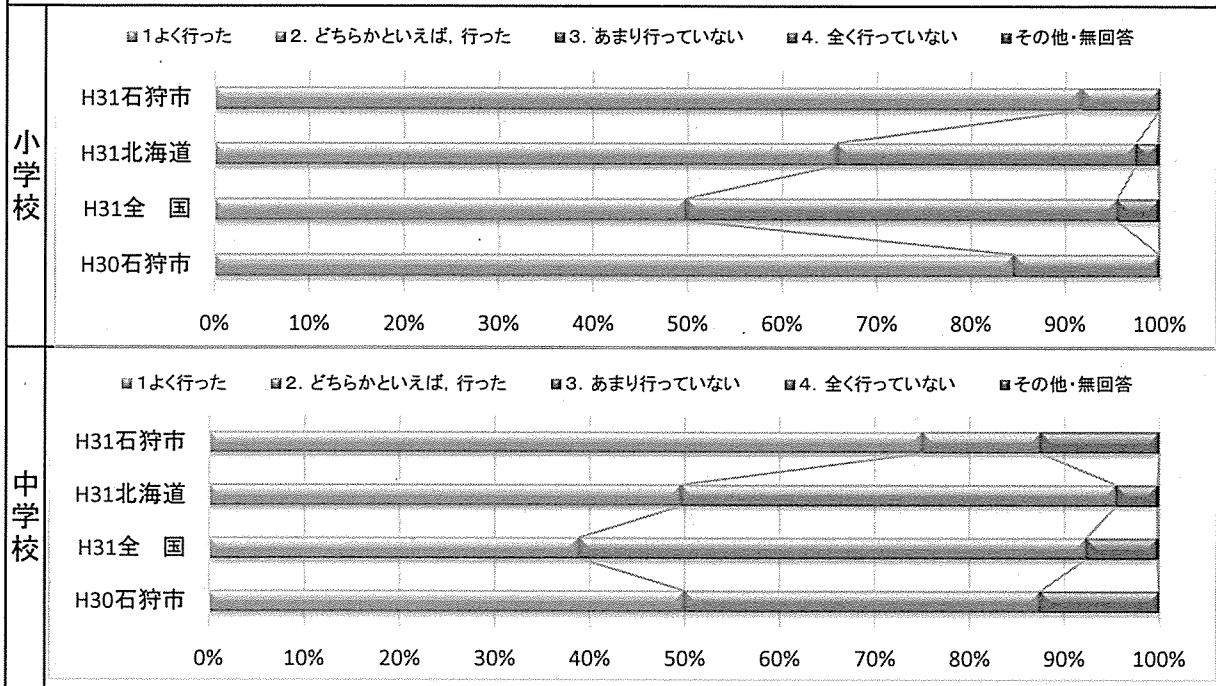


### Ⅲ 家庭学習の取組

#### 家庭学習への積極的な働きかけや取組は定着

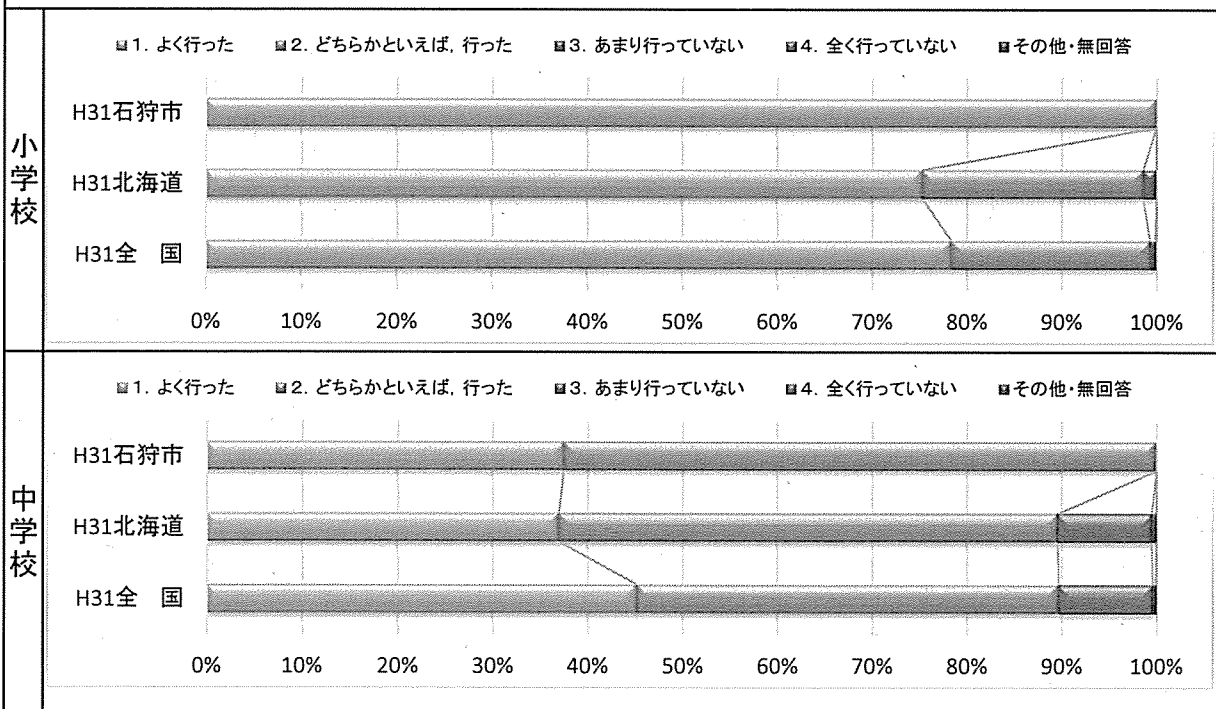
・「前年度までに、家庭学習の取組として、児童・生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたことについて、よく行った」割合は、小学校で91.7%(全国比+41.8ポイント、全道比+25.9ポイント)で、中学校では、75.0%(全国比+36.1ポイント、全道比+25.3ポイント)でした。

#### 14. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(教科共通)



・「国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」割合は、小学校で100.0%(全国比+21.6ポイント、全道比+24.7ポイント)で、中学校では、37.5%(全国比-7.7ポイント、全道比+0.5ポイント)でした。

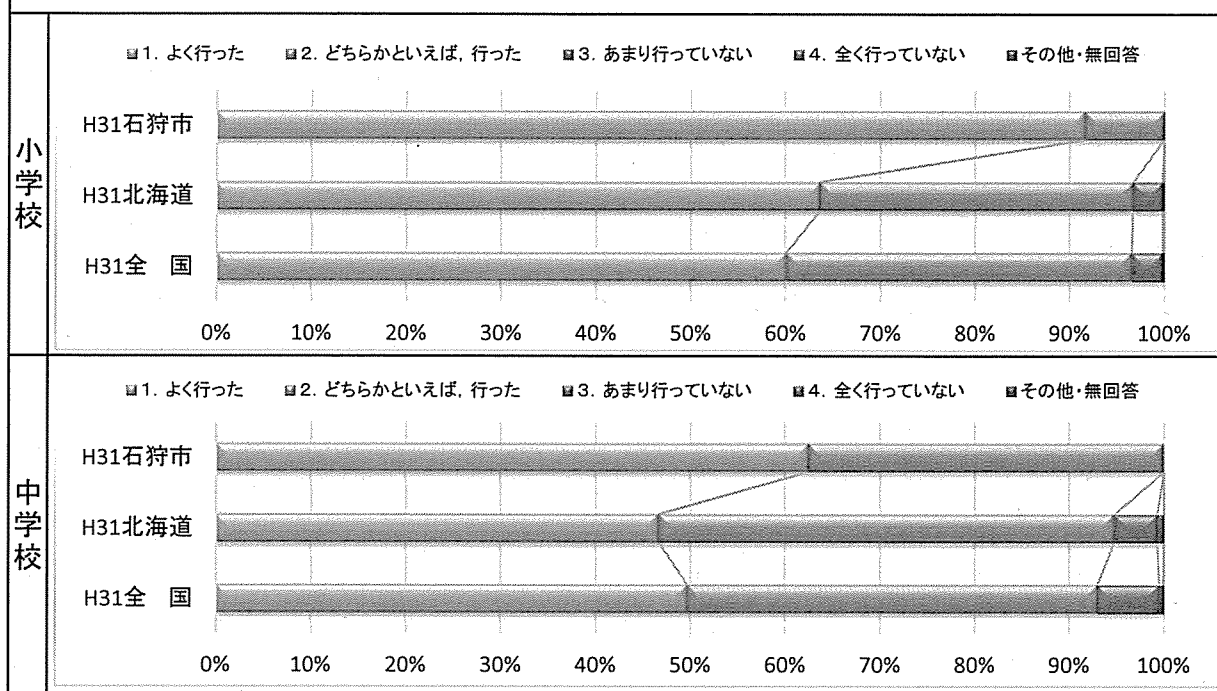
#### 15. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか





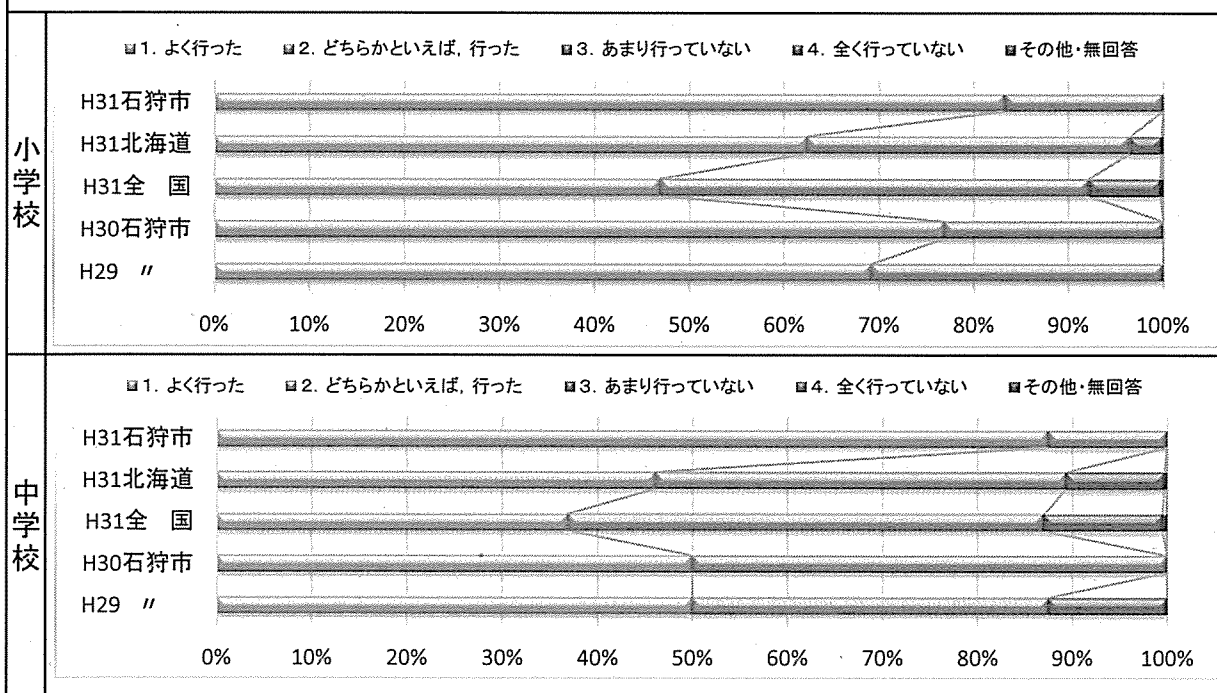
・「国語の指導として、前年度までに、児童生徒が行った家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導をよく行った」割合は、小学校で91.7%(全国比+31.5ポイント、全道比+28.0ポイント)で、中学校では、62.5%(全国比+12.8ポイント、全道比+15.8ポイント)でした。

16. 調査対象学年の国語の指導として、前年度までに、児童生徒が行った家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導を行いましたか



・「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解をよく図った(教科共通)」割合は、小学校で83.3%(全国比+36.3ポイント、全道比+20.9ポイント)で、中学校では87.5%(全国比+50.6ポイント、全道比+41.4ポイント)でした。

17. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(教科共通)

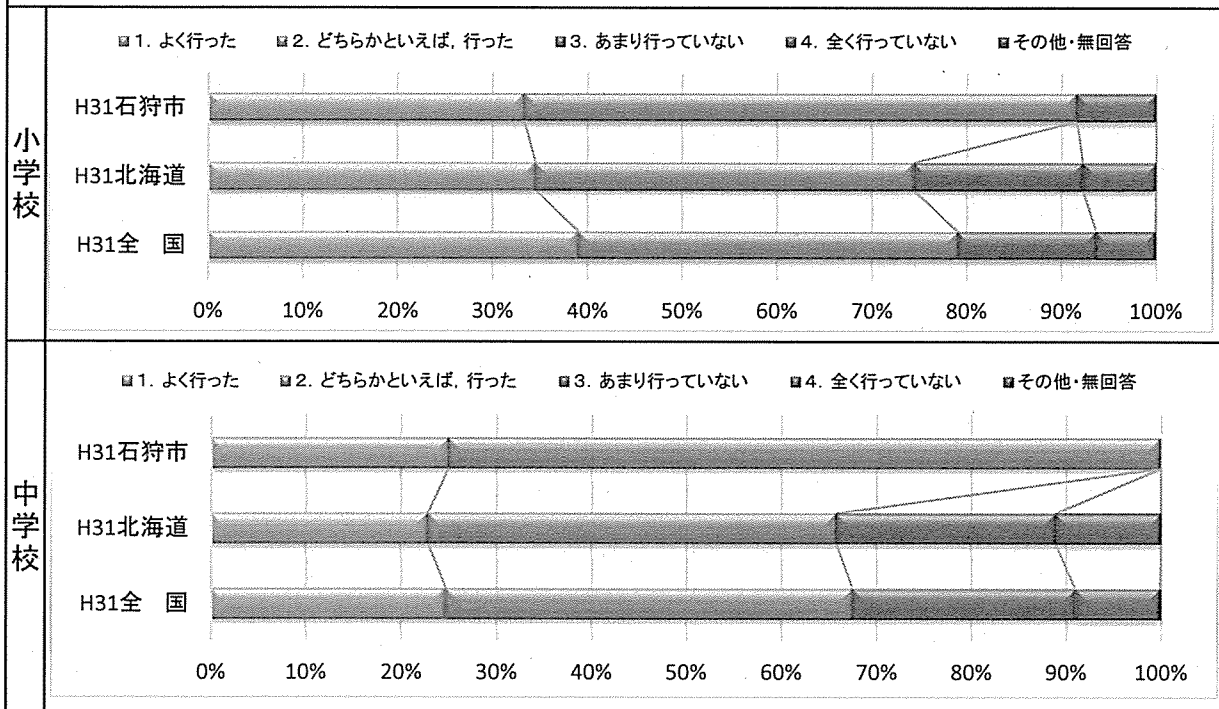


## IV 家庭・地域・小中学校間連携

### 地域の人材活用や小中間の連携教育は着実に進展

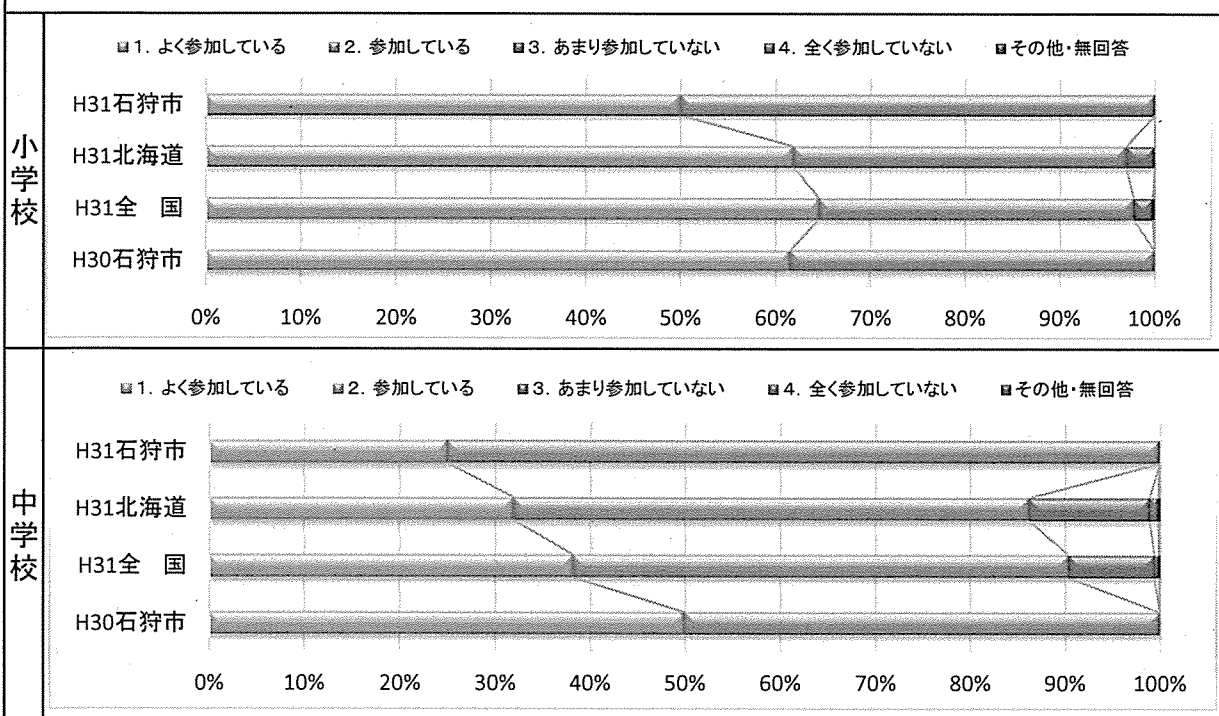
・「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動をよく行った」割合は、小学校で33.3%(全国比-5.8ポイント、全道比-1.2ポイント)で、中学校では25.0%(全国比+0.3ポイント、全道比+2.2ポイント)でした。

#### 18. 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか

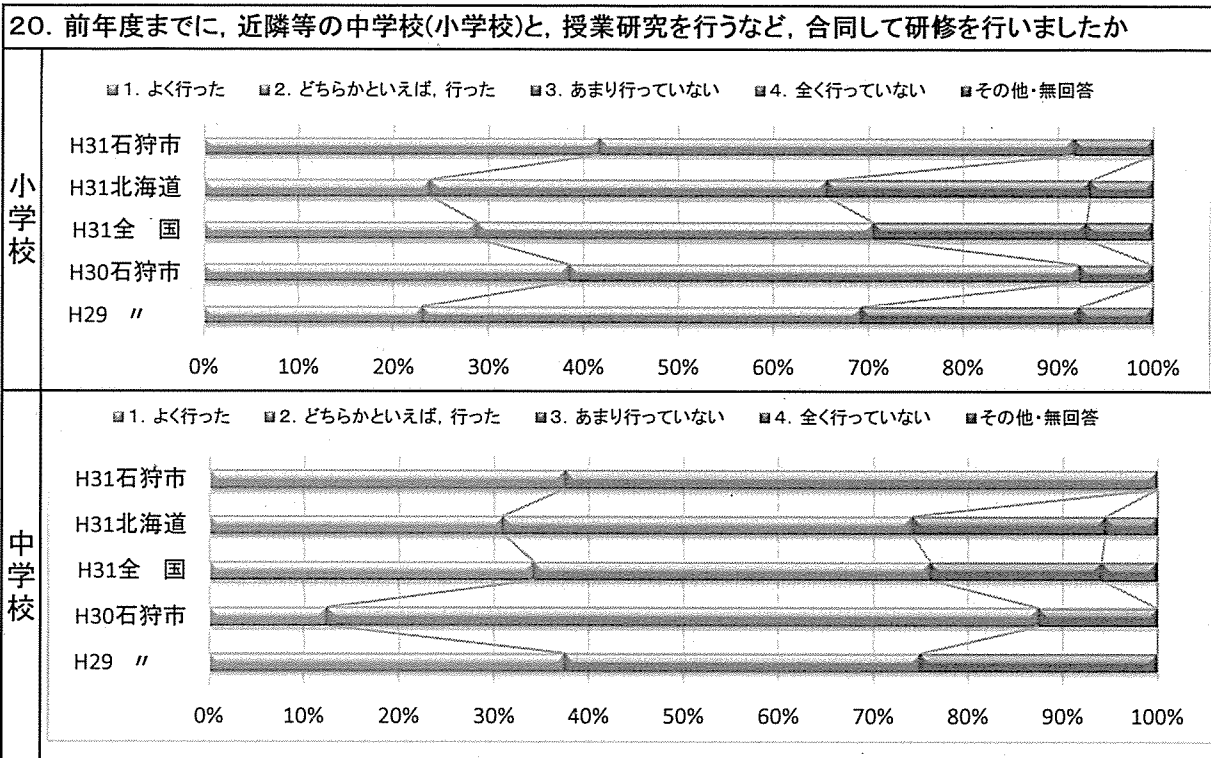


・「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動によく参加している」割合は、小学校で50.0%(全国比-14.6ポイント、全道比-11.4ポイント)で、中学校では25.0%(全国比-13.2ポイント、全道比-7.0ポイント)でした。

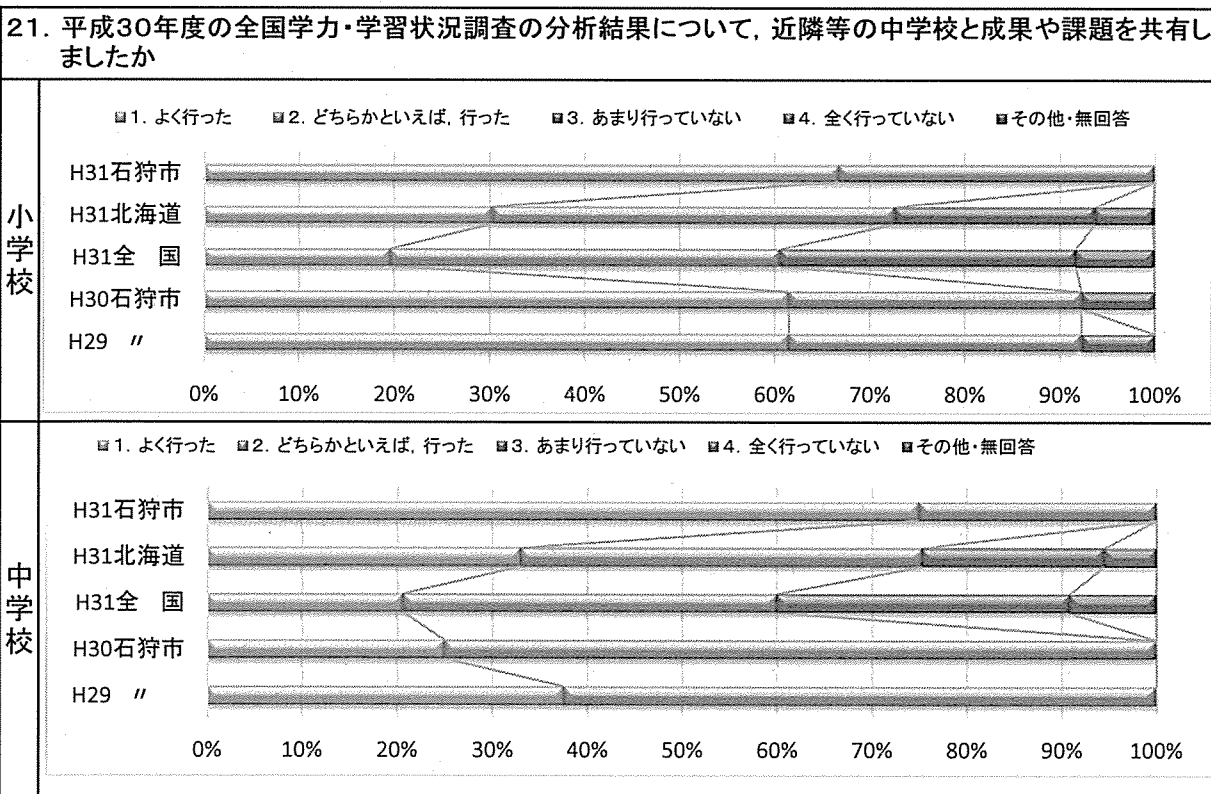
#### 19. 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか



・「前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修をよく行った・どちらかといえば行った」割合は、小学校で91.7%(全国比+21.1ポイント, 全道比+26.1ポイント)で、中学校は100%(全国比+23.8ポイント, 全道比+25.8ポイント)でした。



・「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題の共有をよく行った・どちらかといえば行った」割合は、小学校で100%(全国比+39.4ポイント, 全道比+27.4ポイント)で、中学校では100.0%(全国比+40.0ポイント, 全道比+24.7ポイント)でした。

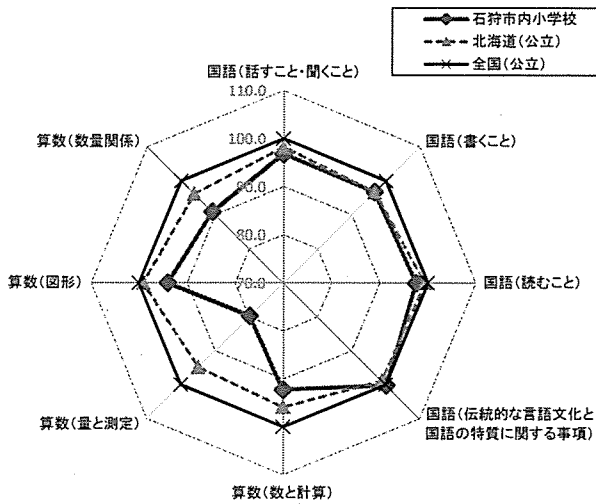




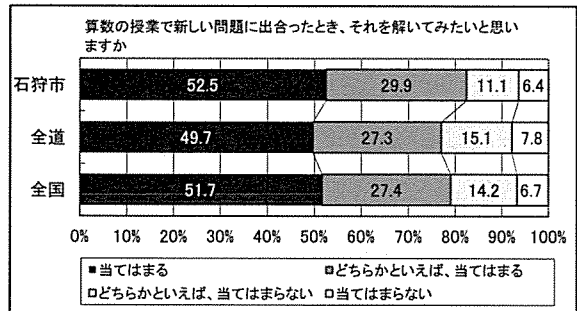
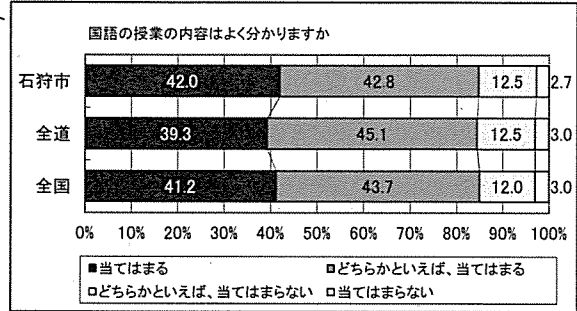
# 石狩市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:12校、児童数:512人)

## 【教科全体の状況】

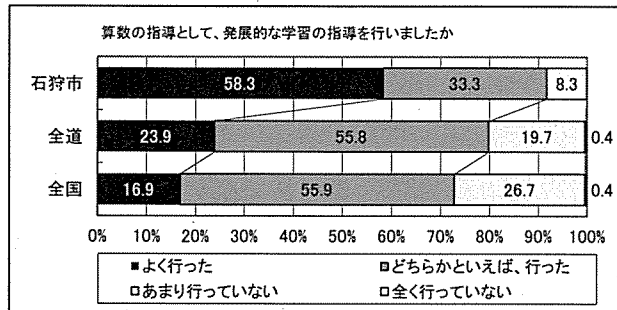
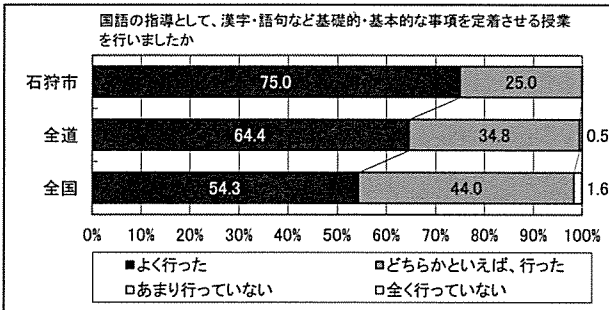
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



## 【児童質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。</li> <li>○ 算数では、「図形」で全国に最も近くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業をよく行ったことにより、「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した児童の割合が増え、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回ったと考えられる。</li> </ul>
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。</li> <li>○ 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 算数の指導として、発展的な学習の指導をよく行ったことにより、「新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」と回答した児童の割合が増え、「図形」で全国に最も近くなったと考えられる。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「国語の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> <li>○ 「算数の指導として、発展的な学習の指導をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> </ul>	

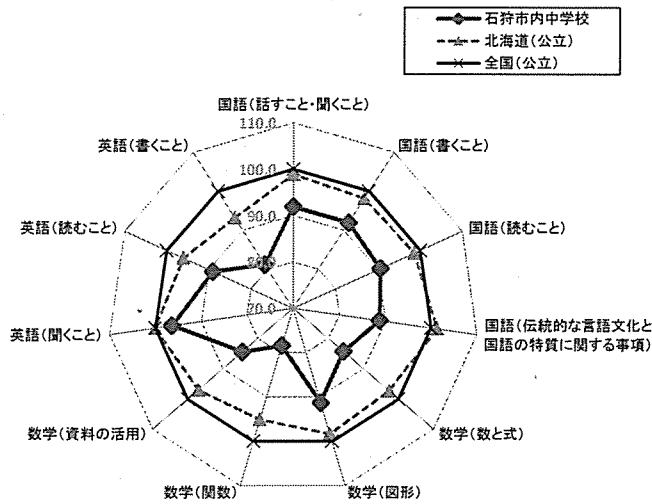
## 【石狩市の学力向上策】

- ◎ 市内全校への「学校力向上に関する総合実践事業」及び「授業改善等支援事業」の成果の普及
- ◎ 「エキスパート・サポーター」や「学力向上サポーター」を活用した「分かる、できるを実感させる個に応じたきめ細かな支援」の推進
- ◎ 小中連携教育に基づく中学校区の試験期間に合わせた家庭学習強化週間の設定
- ◎ 教職員の資質向上や授業力向上に向けたサマーセミナーや教職8年以下の教員を対象としたウインターセミナーの実施

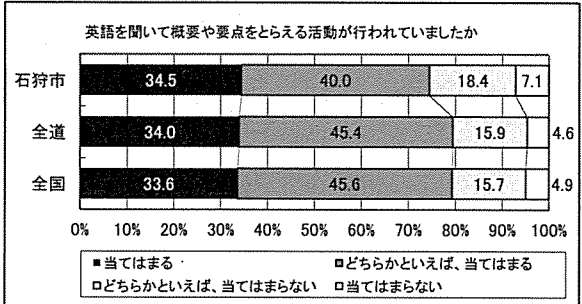
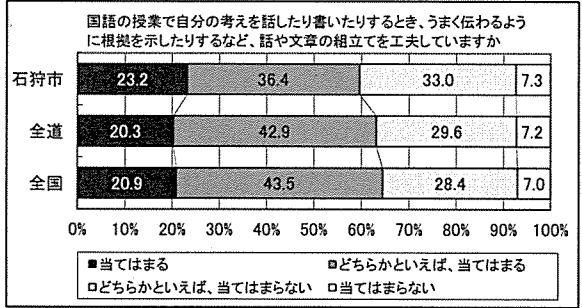
# ■石狩市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:8校、生徒数:556人)

## 【教科全体の状況】

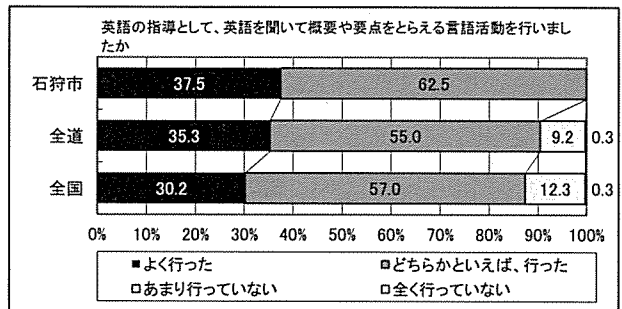
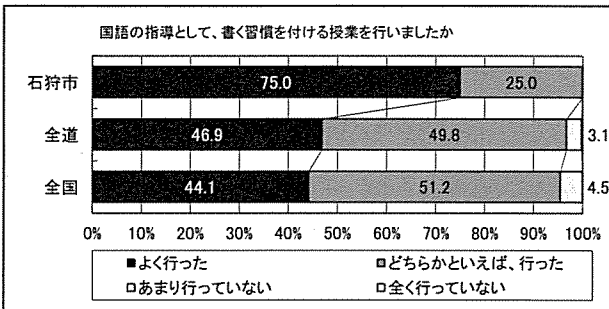
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



## 【生徒質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語では、「書くこと」で全国に最も近くなっている。</li> <li>○ 英語では、「聞くこと」で全国に最も近くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語の指導として、書く習慣を付ける授業をよく行ったことにより、「自分の考えを話したり、書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」と回答した生徒の割合が増え、「書くこと」で全国に最も近くなっている。</li> </ul>
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。</li> <li>○ 「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動を行った」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語の指導として、英語を聞いて概要や要点をとらえる言語活動をよく行ったことにより、「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動を行った」と回答した生徒の割合が増え、「聞くこと」で全国に最も近くなったと考えられる。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「国語の指導として、書く習慣を付ける授業をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> <li>○ 「英語の指導として、英語を聞いて概要や要点をとらえる言語活動をよく行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> </ul>	

## 【石狩市の学力向上策】

- ◎ 市内全校への「学力向上に関する総合実践事業」及び「授業改善等支援事業」の成果の普及
- ◎ 「学力向上サポーター」、「学習支援ボランティア」を活用した「分かる、できるを実感させる個に応じた補充指導」の推進
- ◎ 中学校教員による小学校への出前授業(乗り入れ授業)等、中学校区における「小中連携教育」による家庭学習の積極的な取組
- ◎ 教職員の資質向上や授業力向上に向けたサマーセミナーや教職8年以下の教員を対象としたウインターセミナーの実施